

マルセン



平成26年度 マルセン11号

発行日／平成27年3月
発行所／公益財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団
所在地／〒700-0023 岡山県岡山市北区駅前町1丁目2番4号
電話／(086)800-0077 ファックス／(086)800-0055
URL <http://www.marusen-zaidan.or.jp/>

(本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています)



公益財団法人
マルセンスポーツ・文化振興財団



CONTENTS

ごあいさつ	2
財団法人の概要	3
役員・評議員名簿	5
平成 26 年度財団の事業報告	6

I 公益事業

第1章 助成事業関係

1 スポーツ活動に対する助成	6
2 文化活動に対する助成	7

第2章 表彰事業関係

1 マルセン特別賞	8
2 マルセン賞	8

受賞者からのひとこと

1 マルセン特別賞	佐々木 英代	10
2 マルセンスポーツ賞	IPU 環太平洋大学女子柔道部	11
	小川 晃平	12
	吉備国際大学女子サッカー部	13
	佐々木 美行	14
3 マルセン文化賞	野上 竜太	15
	小出 公大	16
	須本 雅子	17
	藤原 洋次郎	18
	横仙歌舞伎保存会	19

特別寄稿 今、思うこと	信朝 寛	20
-------------	------	----

贈呈式	22
-----	----

第3章 イベントの開催

1 スポーツ	23
2 文化	23

第4章 スポーツ・文化に関する広報啓発育成事業

ホットコーナー 400メートル障害で=進化 今季も高校3冠目指す	26
古備前の神髓へ中近世の大窯再生プロジェクトがクライマックス	28

II 財団の活動

法人管理

参 考	活動助成事業 広報実績のまとめ記載例	(1) スポーツ — 31
		(2) 文 化 — 33

資 料

事業の記録 助成 表彰 イベント・後援等	36
平成 25 年度 収支決算書	41
貸借対照表	42



ごあいさつ

マルセンスポーツ・文化振興財団は、岡山県のスポーツ・文化の振興発展と県民の皆さまが健康で豊かな心をもって生活できる環境・社会の実現を願い平成16年2月に設立いたしました。公益法人制度改革に伴い、平成25年4月1日付で公益財団法人へ移行し、新たな歩みを開始して2年目、設立より11年目を迎えることができました。

今年度財団イベント事業といたしまして、スポーツではバスケットボール教室を開催し、プロの選手に指導していただきました。文化では、公益社団法人岡山県文化連盟と共催した「文化のつとめ」で、素敵な演奏とお話を沢山の方にお楽しみいただきました。また、親子写真教室でも、プロの写真家に撮影テクニックを教えていただく等、心地よい秋空のもと、親子でふれあいながら岡山の自然を満喫されました。このように充実した活動を行うことができました。マルセン賞受賞者の方々をはじめ、財団運営にあたりご協力いただきました皆さまに心より感謝申し上げます。

この度、平成26年度当財団活動の記録といたしまして「マルセン」第11号の発刊の運びとなりました。どうぞ高覧のうえご指摘を賜れば幸いに存じます。ご協力を賜りました関係各位に厚く御礼申し上げます。

今後とも地域の皆さまのスポーツ・文化活動に貢献できますよう一層の努力を重ねてまいります。引き続きご指導及びご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年3月

公益財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団
理事長 千原 多美子

財団法人の概要

I 概要

財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団は、平成16年2月20日付けで設立。その後、国における公益法人制度の抜本改革として制定された公益法人制度改革に係る3法が平成18年6月2日に公布。平成20年12月1日施行。新たな公益法人制度に移行。平成25年4月1日、公益財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団として移行登記、新たに歩み始めました。

当財団は、定款第3条で、その目的を「岡山県のスポーツ・文化の振興発展を支援するとともに県民が健康で豊かな心を持って生活できる環境・社会の実現に寄与する」と規定し、その目的達成のため、次の5項目

- 1 スポーツ・文化活動に対する助成
 - 2 スポーツ・文化活動に対する表彰
 - 3 スポーツ・文化に関するイベントの開催
 - 4 スポーツ・文化に関する広報啓発育成事業
 - 5 その他目的を達成するために必要な事業
- を定め積極的に活動しております。

II 沿革 (概要)

平成16年2月27日	財団設立。岡山市富町二丁目4番4号に事務所を設置
平成16年3月26日	初代理事長に千原多美子就任
平成16年12月14日	第1回マルセンスポーツ・文化賞表彰式及びスポーツ・文化活動助成金交付式の開催
平成16年12月23日	第1回スポーツイベント協賛 第23回山陽女子ロードレース大会
平成17年2月28日	晴れの国おかやま国体へ助成 2回目 平成17年7月14日
平成17年3月11日	第1回文化イベント 岡山フィルハーモニック管弦楽団第26回定期演奏会チケットプレゼントの実施
平成18年1月13日	財団のロゴマークの選考・決定
平成18年4月1日	公益法人指導監督担当課の変更により岡山県教育委員会から岡山県知事所管となる
平成18年8月4日	コミュニティライブラリーの設置（岡山市駅前・岡山会館1階） 「晴れの国おかやま国体写真展 あ感動をもう一度！」 表彰者紹介コーナー ・ 映像コーナーの設置
平成18年11月3日	川島 基ピアノリサイタルの開催
平成19年11月2日	第19回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア2007」「生涯学習見本市」に出展
平成20年3月8日	「マルセン少年サッカー教室」の開催（岡山湯郷ベル）
平成20年11月9日	岡山県生涯学習フェスティバル2008「マルセンバレーアート教室」の開催
平成20年12月1日	新公益法人制度施行により「特例民法法人」となる
平成21年2月25日	「マルセン写真コンテスト入選作品展」岡山天満屋地下タウン「アートスペース」において開催（3月2日まで）
平成21年3月8日	「マルセン少年陸上競技教室」の開催
平成21年6月24日	第25回国民文化祭おかやま2010への助成金贈呈。 2回目 平成22年5月13日
平成21年7月17日	岡山市北区駅前町一丁目2番4号へ事務所を移転
平成21年8月6日	「マルセン写真コンテスト入賞絵はがき」のプレゼント
平成21年10月18日	「マルセン少年バレーボール教室」の開催（岡山シーガルズ）
平成22年1月13日	「スポーツ・文化の振興についての論文」入賞者表彰式の開催

平成 22 年 3 月 5 日	「悠久への回帰 高橋秀 展」チケットプレゼントの実施
平成 22 年 8 月 5 日	「マルセン小学生ソフトボール教室 in 岡山ドーム」の開催 (平林金属女子ソフトボール部)
平成 22 年 8 月 12 日	新田 佳浩氏 (スポーツ大賞) 理事長へ表敬訪問
平成 23 年 7 月 8 日	新公益法人制度移行に伴う「最初の評議員の選任方法」の認可
平成 23 年 11 月 3 日	「川島基&松本和将 ～スーパーピアノデュオリサイタル～」演奏会の開催
平成 24 年 3 月 4 日	成通グループ・(財) マルセンスポーツ・文化振興財団 PRESENTS 「東北楽天イーグルス野球教室」の開催
平成 24 年 3 月 10 日	2012 プロ野球オープン戦チケットプレゼント
平成 24 年 9 月 21 日	公益法人認定に向けて「移行認定申請書」を県知事あて提出
平成 24 年 10 月 5 日	「前橋汀子ヴァイオリンリサイタル」チケットプレゼント
平成 24 年 11 月 11 日	第 2 回航空フェア「フライトシュミレータによる航空教室」の開催 「東北楽天イーグルス少年野球教室」の開催
平成 25 年 2 月 9 ～ 10 日 3 月 2 ・ 3 日	「バレーボール V ・プレミアリーグ」チケットプレゼント
平成 25 年 3 月 9 日	人形浄瑠璃「文楽」チケットプレゼント
平成 25 年 3 月 18 日	移行認定許可 (岡山県知事)
平成 25 年 4 月 1 日	公益財団法人マルセンスポーツ振興財団と改称
平成 25 年 6 月 26 日	平成 25 年度理事会及び評議員会において「収益事業の廃止及び定款の一部変更」 案並びに「定款変更申請」を承認
平成 25 年 7 月 20 日	岡山県文化のつどい 第 1 回「美作国建国 1300 年～津山洋学・知は海より来たる～」 講師 白井 洋輔氏・下山 純正氏 同 2 回目 9 月 19 日 「日本から始まった柔道文化」
平成 25 年 8 月 13 ～ 18 日	創立 10 周年記念展「表彰者色紙展及び自然と遊ぶ・写真展」の開催
平成 25 年 10 月 24 日	第 10 回マルセンスポーツ・文化賞表彰式及びスポーツ・文化活動 助成金贈呈式の開催並びに歴代表彰者等との懇親会
平成 25 年 12 月 6 日	定款変更認定 (収益事業の廃止) (岡山県知事) 12 月 20 日登記完了
平成 26 年 3 月 2 日	成通グループ マルセン財団 PRESENTS 「楽天イーグルス野球教室」開催
平成 26 年 4 月 13 日	第 10 回岡山中央スポーツ少年団ソフトボール交歓大会へ協賛
平成 26 年 5 月 10 日	第 10 回沙美アートフェストへ協賛
平成 26 年 6 月 4 日	ホームページをリニューアル
平成 26 年 7 月 30 日	親子で学ぶてんま屋水族館 チケットプレゼントの実施
平成 26 年 8 月 7 日	第 11 回マルセンスポーツ・文化賞表彰式及びスポーツ・文化活動助成金贈呈式の 開催
平成 26 年 8 月 7 日	岡山県文化のつどい (岡山県文化連盟との共催) の開催 川島 基氏によるお話とピアノ演奏
平成 26 年 9 月 8 日	山陽新聞レディースカップ 入場券プレゼント
平成 26 年 9 月 13 日	第 30 回全国選抜フットサル大会へ協賛
平成 26 年 9 月 15 日	財団新 C M 放映開始 「マルセンバスケットボール教室」の開催 (共催 高松ファイブアローズ) 主管 岡山県中学生バスケットボール連盟
平成 26 年 9 月 27 日	「マルセン親子写真教室」の開催 岡山市龍の口グリーンシャワーの森 講師: 第 10 回マルセン文化賞受賞の難波 由城雄氏 その後ホームページ上で、入賞入選作の発表
平成 26 年 10 月 10 日	池田綱政公 300 年遠諱記念事業「護国山曹源寺」展へ協賛 県立博物館
平成 26 年 11 月 2 日	プロバスケット試合 Bj リーグ高松ファイブアローズ試合を共催 (備前での開催 2 度目。前回 H25.10.27 に開催)
平成 26 年 11 月 16 日	第 33 回山陽女子ロードレース大会 (協賛) 岡山市内
平成 27 年 1 月 24 日	岡山フィルハーモニック管弦楽団 第 46 回定期演奏会チケットプレゼント 40 名招待
平成 27 年 3 月 吉日	広報誌「マルセン 11 号」の発刊

役員・評議員名簿

役員

平成27年1月1日現在

役職名	氏名	会社名
理事長	千原 多美子	(株)成通 取締役
常務理事	千原 秀 則	(株)センインターナショナル 代表取締役社長
理事	加計 孝太郎	学校法人 加計学園 理事長
〃	川崎 誠 治	学校法人 川崎学園 理事長
〃	越 宗 孝 昌	(株)山陽新聞社 代表取締役会長
〃	吉岡 洋 介	(公財)ワコースポーツ・文化振興財団 理事長
監事	衣笠 和 孜	岡山療護センター センター長
〃	信 朝 寛	岡山県元審議監

五十音順 敬称略

評議員

役職名	氏名	会社名
評議員	馬 越 績	馬越績税理士事務所 所長
〃	川 端 英 男	テレビせとうち(株) 代表取締役社長
〃	北 尾 好 昭	(株)瀬戸内海放送 常勤顧問
〃	千 原 行 喜	(株)成通 代表取締役社長
〃	中 川 洋 一	西日本放送株式会社 岡山本社 中国総支社 支社長
〃	野 崎 誠 二	岡山ネットワーク株式会社 代表取締役社長
〃	原 憲 一	山陽放送(株) 代表取締役社長
〃	平 松 掟	平松弁護士事務所 (元日本弁護士連合会副会長)
〃	藤 田 土 義	(株)成通 相談役
〃	宮 内 正 喜	岡山放送(株) 代表取締役社長
〃	若 狭 正 吾	岡山エフエム放送(株) 代表取締役社長

五十音順 敬称略

顧問

役職名	氏名	所 属
顧 問	伊 東 香 織	倉敷市長
〃	大 森 雅 夫	岡山市長

五十音順 敬称略

平成26年度 事業報告

(I)公益事業

第1章 助成事業関係

岡山県内において、スポーツ・文化の振興及び発展に寄与するため下記の諸事業に助成を行いました。

1 スポーツ活動に対する助成 (応募数 /21 件 採用件数 /12 件)

番号	団体名	活動名	活動目的(内容)
1	明日華クラブ	全日本交友祭 (10周年記念)	ドッジボールを通じて子供たちの心身の育成と体力向上をめざし活動している。この度全国から32チーム・総勢約900人規模での大会を地元で開催。子供たちが多くのチームとの交流を図り友好を深めた。予選はブロックごとに分かれてリーグ戦、その後決勝トーナメントを行い、優勝・準優勝・3位までを表彰し賞状副賞を授与した。混合チームでのエキシビジョンマッチも行い友好を深めるとともに参加賞も配布しました。
2	岡山県ダンススポーツ連盟	第9回 岡山県ダンス スポーツ競技大会	当連盟は岡山県の統一組織として、ダンススポーツの振興を図り、県民の心身の健全な発達ならびに文化の向上に寄与することを目的としている。その一環として、毎年秋に競技会を開催。今年は岡山県体育館において県内外よりジュニアから80代までの幅広い年代が多数参加し、一般ダンス愛好家など誰でも参加できるクラスから最上位級のAクラスまで開催された。スタンダード部門Aクラスでは岡山県の選手が優勝するなど活躍した。
3	岡山県軟式野球連盟	第18回 西日本軟式野球 選手権大会	(公財)全日本軟式野球連盟主催・当連盟主管で大会を開催。倉敷市宮球場4会場で実施。前年優勝チームと近畿・中国・四国・九州の各ブロックから23チーム・推薦3チームの27チームで開催。選手・大会役員・審判団他スタッフを加えると、のべ700名を超える大会であり、4ブロック23県持回り、岡山県で初開催となる。全国レベルのチームも多く、軟式野球の普及発展と青少年の健全育成に寄与することを目標としている。
4	片上スポーツ振興会	片上地区ファミ リ運動会	片上地区ファミリー運動会は、毎年小学校の運動会終了後開催しており昨年で37回を迎えた。同地区町内会(約1300世帯)挙げての年に一度の行事。高齢者から幼児に至るまで皆で力を合わせて参加できるイベント。16チームに分かれての町内会対抗戦でチームごとの団結力は強く、特に最後のプログラム「年齢別リレー」では皆で応援し大変盛り上がる。事業費は、100人以上のボランティアの協力を得ながら、会員一世帯当たりの会費で賄っている。住民の減少が進み運営を危惧している。助成を受けて、記録の保存のためのストップウォッチを購入し、充実した運営ができて、ラストプログラムまで各チームの情熱が伝わった大会となった。
5	金小ソフトボールスポーツ少年団	第8回金小杯 ソフトボール交 歓大会	いつも大会へ招待される側だったので、スポーツ少年団加入を機に7年前、この大会を立ち上げた。年々在籍団員も減少し大会運営が危惧される中、先輩方の助けも借りて、昨年より2チーム多い11チームを招待し、全12チームで白熱した試合を繰り広げた。助成を受け、賞品を例年より豪華なものにした。子どもたちのやる気を一層引き出すことができた。
6	児島マリンスポーツクラブ	親子体操教室	当クラブは、設立から6年を迎えており、体操、空手、合気道から大人のヨガ、ダンス等の健康教室を行っており、3歳から70歳の幅広い年齢層の会員数380名の総合型地域スポーツクラブである。申請の親子体操教室では、親子でスキンシップを取りながら楽しく体を動かして子供の健全育成、保護者のストレス解消とネットワークづくりを目的としている。助成を受け、教室を継続させ、今後は広く支持していただけるよう努力し自立運営ができるようにしたい。
7	里庄町少年野球クラブ	第22回里庄町学 童親善野球大会	7月20日(日)里庄町野球場をメイン会場にして、第22回里庄町学童親善野球大会を行った。県内の学童軟式野球チームを中心に、17チームを招待し、猛暑の中試合を行い白熱したものになった。試合はリンク方式で、勝率・得失点差で優勝を争った。また試合の空き時間に、他のチーム選手との交流、指導者・保護者同士の情報交換なども出来、初期の目的を達成できた。助成金を使用し、キャッチャー用具・ヘルメットを購入することが出来た。
8	津山市軟式野球スポーツ少年団	津山市軟式野球 スポーツ少年団 春季大会・秋季 大会・野球教室	子どもたちの心と体のバランスのとれた発達や野球技術の向上、津山市内の学童軟式野球の健全な発展を図ることを目的に津山市内5つの軟式スポーツ少年団が一つとなって活動している。子どもたちの体力低下が基礎的な運動能力「走る・飛ぶ・投げる」等の低下に象徴的に表れている。また落ち着きがなく、人の気持ちに汲みこむことが出来ない自己中心的な子どもたちが増えている。外遊びが減り、スポーツ少年団の入団を敬遠する子も増え解散を余儀なくされるスポーツ少年団もある。このような中、野球スポーツ少年団の存在を知ってもらい、野球の楽しさを教え、スポーツをはじめるきっかけとなってもらえるよう春と秋の2回の大会を初めて開催し、子ども達は熱戦を繰り広げました。優勝旗の作成により来年以降の大会継続のきっかけとなりました。
9	新見市スポーツ少年団	新見市スポーツ 少年団 創立50周年記念 事業	昭和39年の発足以来青少年のスポーツ振興及び健全な育成に資することを目的として今日まで活動してきた。団員・指導者・育成会員の献身的な活動と地域の方の理解協力により、平成26年をもって創立50周年を迎える。その記念事業として、記念大会・記念講演会・祝賀記念誌の発行・絵画コンクールを計画している。記念誌の発行に助成していただきたい。30周年・40周年もともに記念誌を発行しており、本事業の中心的な事業として位置付けている。節目の年として、歴史を振り返り、後生に記録として残し、今後の本団の益々の発展を願い、意義深い内容となるよう調査・編集を行いたい。発行部数は400冊で各単位団や市内業者等への配布を計画している。(年度末)
10	備前市日生文化協会会員ダンスサークル Like it	～Like it～ダンス 交流発表会	3歳から85歳までのいろいろな世代が集い、日ごろの成果を発表する場となった。助成のおかげで世界で活躍されるダンサーの方に出演した審査をお願いすることが出来た。出演者は、164名、観覧者は112名となった。子どもたちにも感動と希望を与えられた。
11	NPO法人美咲町柵原の里スポレク倶楽部	きらり☆子ども体 力UP事業(コー ディネーショント レーニング)	子どもの運動不足、体力低下が叫ばれる中、当倶楽部では平成25年度より未就学児童中でも町内の保育園児の年長を対象とした体育支援活動を行っている。この年代のスポーツへの入り方が将来を左右する。そこでH26年度から子どもの基礎体力の向上、運動神経の発達支援を目的とする「コーディネーショントレーニング」を新規事業として取り入れたい。未就学児に対しては、保育園と連携して楽しみながら体を動かすことが好きになるように、また小学生を対象とした「体操教室」を立ち上げ児童の発達支援、基礎体力の維持向上を図りたい。そのための備品の購入に助成金を当てたい。
12	美作ボーイズ	第8回美作市長杯 美作ボーイズ大会	選手・保護者への交流親交の機会の提供、団体行動並びに公共施設での守るべきルールやマナー等を学ぶ場の提供を目的としている。(公財)日本少年野球連盟(ボーイズリーグ)に加盟所属する関西・中四国地方の中学生硬式野球チーム15チーム(選手約300名)を招待し、16チームによりトーナメント方式で行い、優勝準優勝チームを表彰した。また優勝チームから最優秀選手賞1名、準優勝チームから優秀選手賞1名を表彰。大会初日は、美作野球場において岡山県立林野高等学校吹奏楽部によるマーチングを披露してもらった。

2 文化活動に対する助成 (応募数 /57 件 採用件数 /14 件)

番号	団体名	活動名	活動目的(内容)
1	牛窓しおまち唐琴通りの保存と活性化プロジェクト	地域文化の伝承 と保存(八朔ひ な飾りと郷土史 誌デジタル化事 業)	古い港町である牛窓には古くから八朔(旧暦8月1日)に餅をかざり、「ししこま」と呼ばれる米粉で作った山海の産物をお供する風習があったが戦後その風習はすたれていた。それを町おこしの一環として平成22年から同プロジェクトが復活させた。それが多くの人々の関心を集め、テレビで全国放送されたこともあり一層の賑わいを期待している。今年も継続し、約50か所で餅飾りを展示、ししこま作り体験ができる事業を実施する。また牛窓には「牛窓春秋」というすぐれた郷土史誌が62巻まで長年にわたり編集されていたが、執筆編集者が亡くなり廃刊となっている。こうした文化的資産を保全しさらなる有効活用を図るためデジタル化する事業も行う。デジタル化で牛窓に関する数々のキーワード検索が可能になり、複合的な学習や郷土史研究が進み、郷土の文化に対する理解、関心が高まり一層の郷土への愛着と誇りが醸成される。
2	岡山県読書推進運動協議会	一日こども図書 館フェスティバ ル in きびちゅう おう	H26年度は、吉備中央町で開催。同町ではH17年に「吉備中央町読書推進委員会」を結成し10年目となる。読書推進委員会は、町内の読書関係団体・行政機関が協働してすべての子どもたちが読書に親しむことはできる環境づくりを目指している。読書推進活動は、学校だけでなく地域・家庭とともに環境が整えられていくことが望ましい。そのため読書推進委員会、中学生ボランティア、おはなしグループ等と連携し図書館のあるロマン高原かよう総合会館を利用し、「一日こども図書館フェスティバルinきびちゅうおう」を実施する。劇団または絵本作家による公演、おはなしグループによる人形劇、読書グループの表彰、一日こども読書大使による図書館司書体験を設ける。工作コーナー、本のリサイクル、小・中学校の取り組み展示等を通じて、親子で本に触れあえるイベントを計画。毎年イベントには300名を超す参加があり、親子のふれあいの場としてもよい機会となっている。より多くの町民が参加し本への興味関心をいざ、町立図書館2館の利用促進につながることを目指す。中学生、学校図書館司書をはじめ多くのボランティアの協力のもと盛大に開催できました。
3	岡山市民会館コンソーシアム	若手ピアニスト 支援育成事業参 加者による岡山 市民会館ピアノ フェスティバル 2014	岡山市民会館では、若手ピアニスト支援事業として、ピアニストまたはそれを目指して勉強している地元在住・出身の方を対象に大ホールでフルコンタイプのスタンウェイD-274を利用した練習会を2012年度より継続的に実施。昨年度までに9回を数え成果を上げている。2013年度は特に積極的にその事業に取り組み若手ピアニスト9名を選抜。演奏会に向けた練習会を設けながら、ゲストピアニストによる公開レッスンを随ってフェスティバルを開催。練習会・演奏会ともに大きな反響を呼び、演奏会としても多くの方に来場いただいた。2014年度は次の世代の参加者やさらに広く県下と普及し大きな空間での練習の成果発表の場を提供し参加者のさらなる飛躍と音楽文化の振興に貢献したい。8名の参加者と1名のゲストピアニストの練習会、公開レッスン、演奏会を実施した。今後も「若手ピアニスト支援育成事業」の練習会・参加者も本フェスティバルへの出演をめざして参加することにより、地域全体のレベルアップにつなげたい。
4	特定非営利活動法人 岡山の和を文化を楽しむ会	第6回 後楽園和 の学校	近年の生活様式の洋風化に伴い、日本の文化は影が薄くなりつつある。とりわけ伝統文化、伝統芸能は関心を示す人も少なくなり数々が消えていく。国際化といわれる現代、自分の国の文化を知る必要がある。日本の伝統文化・伝統芸能について一日一講座、専門の講師から学んでいただく。会場は広い和室があり、駐車場が十分にあり環境としてもふさわしい後楽園とした。子どもたちが夏休みとなる8月に7回開催。小中高生が81名、一般が201名の合計282名が参加した。
5	岡山弁協会	岡山弁はええもんじや 〜こぼの祭り・建部〜	今年、岡山弁大会「岡山弁はええもんじや〜こぼの祭り・建部〜」の15回目であり、岡山弁協会設立50周年になるので、記念になる大会にした。これまでのスタイルに加え、若い人からの要望があるものがある。日本の伝統文化・伝統芸能について一日一講座、専門の講師から学んでいただく。会場は広い和室があり、駐車場が十分にあり環境としてもふさわしい後楽園とした。子どもたちが夏休みとなる8月に7回開催。小中高生が81名、一般が201名の合計282名が参加した。
6	聞き書き人の会	聞き書きを通じ て、地域の人々 の記録を残し、 地域づくりに役 立てる	戦前、戦中、戦後の激動の時代を生きてきた方たちの高齢化が進み、当時の人々の生活がどうであったかという記憶が失われようとしている。お年寄りたちに語ってもらい、文字に残すことを「聞き書き」という方法を聞き、話を聞き、それを文章にまとめることで広く地域の財産として残しておく。26年度の計画は、次の通り、1.「聞き書き」の学習と技術の習得。2.専門家を招いての公開講座の開催。3.会報誌の編集・発行及び図書館公民館への配布。4.図書館、公民館での聞き書き事業の実施。5.「聞き書き人」養成講座などの開講を通じて聞き書きのできる人の養成。6.県内外の聞き書き団体、グループとの交流。
7	倉敷管弦楽団	倉敷管弦楽団第 40 回定期演奏会	倉敷管弦楽団は、来年創立40周年を迎える。小松長生氏を指揮者に迎えた。今までの活動を総括し今後の発展を期するため、節目の演奏会を開催した。 今回、ドビッシェ「小組曲」そして大作、マーラー作曲「交響曲第5番」を取り上げた。特にマーラー作曲「交響曲第5番」は芸術的にも深い内容を持っており、演奏的にもレベルが高く長期に亘り進歩が実感できずにはいられない。いま被災地で求められるものは、「支援」から「支線(線を支える)」や「交流」に変わってきていると実感している。この事業には新規市内で活動している和太鼓チーム(社会人団体、子供太鼓、篠笛奏者)などにも出演いただき、西日本と東日本の伝統芸能による文化交流を行いたい。将来には伝統芸能だけでなく、産業などの継続的・持続的な幅広い交流が行われることを期待している。当日は、入場を無料(要整理券)とし、福祉施設やデイケア利用者の希望者を全員招待した。
8	倉敷市立工業高等学校	ゼロハンカーの 製作を通じて、 定時制生徒の自 己肯定感を育む	H25年度の学校経営目標に「ものづくりを通して、自己肯定感を育み、有意な工業人をもたせること」が示された。この目標達成に向け4年生の課題研究、3年生の総合的な学習の時間において50cc4サイクルのエンジンを搭載したゼロハンカーを自作し、その車で全日本高等学校ゼロハンカー大会出場をめざした。地元企業、レーションショップ、卒業生の協力のもと大会への出場を果たした。昨年12月に開催された2次予選まで進出したがダートの長時間走行のため問題点もみつかると、昨年度は4年生中心だったが、今年度は多くを見学してきた下級生が情熱を引き継ぎ改善することで、レース出場を目指したいとの声が多く寄せられている。生徒とさらに検討を進め改善し、単にものづくりの経験を経験するばかりではなく、自分に対する自信、自己肯定感が育まれると思う。
9	災害支援ネットワーク NPO かけはし	東日本大震災復 興支援チャリテ ィライブ“希望 の鼓”	東日本大震災から3年たち、岡山県民の多くの人々の関心が薄れてきている。この事業において宮城県(JM's) JAPAN オークストゥを招致し、瓦礫再生太鼓を使った演奏や被災地報告を行うことにより、今年度県民の皆さんに被災地について考える機会をもち、「今自分が何ができるか?」を考えた行動に移して貰えるきっかけとなつてほしい。いま被災地で求められるものは、「支援」から「支線(線を支える)」や「交流」に変わってきていると実感している。この事業には新規市内で活動している和太鼓チーム(社会人団体、子供太鼓、篠笛奏者)などにも出演いただき、西日本と東日本の伝統芸能による文化交流を行いたい。将来には伝統芸能だけでなく、産業などの継続的・持続的な幅広い交流が行われることを期待している。当日は、入場を無料(要整理券)とし、福祉施設やデイケア利用者の希望者を全員招待した。
10	山陽女子中等高等学校	山陽女子中等学 校 JRC 部「チャ リティーバザー 仁」	1.地域の方で地域を元気にする活動として、中高生が企画するバザー「第2回チャリティーバザー仁」を行う。昨年同様商店街の方々、フェイスアップショップを通じて広く協力を呼びかけ、物品提供をお願いする。その売り上げを震災復興の方々に、母子避難を余儀なくされた岡山にいる方々の支援を行っている「特定非営利活動法人99おみやげ」を通してネットのふるみりえんのたくし活動」に寄付する。また夏の文化祭と10月鉄道の日(JR駅前)で手作りクッキーを作り販売して売り上げを東日本大震災復興の方々に「みちのく未来基金」を通じて寄付する。地域一体となって取り組む、中心となった学生たちががががが社会人としてよりよい社会づくりに貢献することを願う。助成金は、クッキー梱包表示のためのプリンター購入と原材料購入に充てられた。
11	勝央町教育委員会	平成26年度勝央文化ホ ール事業「カルテッ トスピリタス」ア クティビティ・ス クールコンサート 一般公演	サクセス4重奏の「カルテットスピリタス」を招聘し、3日間の日程で①勝岡田小5年生62名、勝央北小4年生30名にアクティビティ・スクールコンサート(出張ミニコンサート)。音楽室に集め、演奏者の生の声を聞き近に感じてもらう。②小学校2校の全校生徒を集め、スクールコンサート(634名)③一般公演、町民の方に聞いていただくためホールコンサートを有料で実施(有料211名)。全体を通してアーティストとの音楽を通して交流ができました。
12	つやまこどもオンステージ実行委員会	つやまこどもオン ステージ	毎年12月下旬に1年の締めくくりとして津山文化ホールで開催している「つやまオンステージ」はH26年度で第17回を迎える。県北地域で活躍する園児から高校生までを中心とした校外活動(文化活動)の団体を対象として出演団体を募集し、日本舞踊からバレエ、合唱やそのほかタップダンス、創作ダンス・ヒップホップまで様々な種類の団体が一堂に集まる合同発表会。子供たちにとって大きな舞台である。津山文化センターで発表を行うことで個性や創造性を伸ばし活躍できる機会。長く続く催しではあるが少子化の影響で出演者も減り、チケット収入も減少しており運営資金も逼迫している。しかし新たな出演者の獲得やより魅力的なステージになるよう充実を図り、PR活動やにも力を入れ地域文化の振興と活性化を図ってゆきたい。出演者11団体224名の子ども達 入場者838名
13	備前市合併10周年記念「第九」演奏会実行委員会	～みんなて歌 を合わせると 楽しさを学ぶ～ 「BISEN コーラ ス第九演奏会」	平成17年に6団体が集まって発足。昨年まで8回開催している。現在9団体が加盟しており150人となっている。備前市の地域に根ざした音楽の普及と合唱を通じた将来の地域人材育成事業を行う。住民が協力して活動・練習を行いベータ版の「第九交響曲」を歌う。地域の音楽関係者の協力体制を推進し、小さな声でも協力すれば「第九」を歌うことが出来るとの意識醸成を行う。平成26年度は合併10周年を迎える記念イベントとなる。(H27年3月開催)
14	ボランティア人形劇サークル風の子	子育て支援と青 少年健全育成 (幼稚園お楽し み会・感謝会)	平成元年に設立。16名で発足したが、現在36名となり、年間約20回の公演活動を展開。昨年内閣より平成25年度チャイルド・ユースサポート章を授受する。昔話や民話を人形劇や大型紙芝居・ブラックファンタジーの手法で公演。現在ら量一量分の大きさの大型紙芝居を使用している。語り継いでいきたい民話や昔話の中から、命の大切さ、思いやりや仲間作りを伝えられるものを中心に選び制作し市内外の保育園、幼稚園、各種サークルの団体で公演している。温かみのあるのみを使い大型の背景も布のスクリーンにし春夏秋冬の変化も持たせ、子どもたちも縫いぐるみで参加できる作品でやさしさや協調性を養ってもらえるようにと考えている。助成金は、その材料費に充てたい。

第2章 表彰事業関係

1 マルセン特別賞

平成25年度において、マルセン文化賞と同程度の功績等を挙げた個人を表彰した。

【マルセン特別賞】(副賞/30万円)

● 佐々木 英代 【音楽 声楽】

● 佐々木 英代氏は、声楽、発声法、指揮法を学び、特に日本歌曲を得意としている。昭和51年から近代日本音楽研究会を主宰し、日本歌曲の連続演奏会を開催するとともに、中国二期会の主要メンバーとしてオペラの主役を演じ、ソリストとして宗教曲オラトリオ等も数多く演奏している。大学在学中から合唱の指揮に携わり、女声合唱団を全国大会で幾度も優勝に導く。特に300人合唱で知られる岡山女声合唱団「華」は、ウィーン、上海、シチリア、サンフランシスコ等の海外公演でも大好評を博している。また、後進の育成にも力を注ぎ門下より地元岡山に声楽家合唱指導者を数多く輩出している。

次代を担う子供たちへの指導「学校出前講座」「オペラってなあに?」においても、小中学生を対象とした、楽しくそして貴重な芸術体験を提供して好評を博している。さらに、岡山県演奏家協会会長としてルネスホールの開設当初から、クラシック委員会の委員長を務めるなど地域の音楽活動を支えている。

また、ソリスト・合唱指導者・プロデューサー、指揮者そして、教育者等々と多彩な幅広い音楽活動を通じて地域の文化・芸術の振興に、多大な貢献をしており、その功績は極めて大きい。

2 マルセン賞

平成25年度 スポーツ活動において、優秀な成績を収めた個人、団体又はスポーツの振興に貢献した個人、団体並びに文化の活動において、文化の振興に貢献した個人、団体を表彰した。

【マルセンスポーツ賞】(副賞/30万円)

● 小川 晃平 【体操競技 新体操】

● 平成17年、小学校4年生から井原ジュニア新体操クラブに入会。豊富な練習量により実力をつけ、全日本ジュニア新体操選手権大会で2年連続4度目の優勝に貢献。井原高等学校新体操部に入部後もさらなる指導、練習量により、平成25年には、男子個人総合で岡山県勢では初の全国選抜、全日本コース、インターハイの高校3冠を達成した。剛と柔を演じ分ける抜群のセンスに心技体を磨き上げ急成長した。4月から花園大学に進学し、新天地において、さらなる飛躍が見込まれる。

● IPU 環太平洋大学女子柔道部 【柔道競技】

● 平成25年6月 全日本学生優勝大会(インカレ)を制し、続く11月の全日本学生体重別団体優勝大会も優勝し、史上初の団体2冠を成し遂げた。

オリンピック柔道の金メダリスト古賀俊彦氏を総監督に迎え、矢野監督とともに「自分にうそのない練習」をモットーに最強軍団を作り上げた。

その活躍は、岡山県民に大きな夢と勇気を与えてくれた。その功績は誠に多大である。

● 吉備国際大学女子サッカー部 【サッカー競技】

● 唯一の大学生チームとして、なでしこリーグに参戦している吉備国際大シャルムの母体となるチームである。年末から年始にかけて行われた第22回全日本大学サッカー選手権大会で、関東、関西以外の大学では、初の優勝を飾った。高校時代に年代別代表を経験したような選手が一人もいない中、無名選手たちが切磋琢磨しながらチーム力を上げていった。選手たちは、サッカー教室やイベントの手伝いなど、地域貢献活動にも力を入れており、過疎が進む町をにぎわせてくれる存在として住民に親しまれている。

この優勝は、なでしこリーグに参戦している吉備国際大シャルムに大きな力を与えるとともに岡山県民に女子サッカーへの大きな夢と勇気を与えてくれた。その功績は誠に多大である。

● 佐々木 美行 【スケート競技フィギュア 指導】

● 大学時代に、スケートに出会い、選手とし活動し、大学卒業と同時に小学校教諭として勤務。倉敷市にスケートリンクが新設された時、平成5年に倉敷フィギュアスケートクラブを設立。

その後、現在まで、フィギュアスケート選手の育成及び練習環境の充実に尽力してきた。これまでに250名以上の選手を指導し、現在も約40名のクラブ所属選手の育成・指導に当たっている。そしてその中から、世界選手権で優勝したオリンピック銅メダリストの高橋大輔選手やジュニアグランプリシリーズ2連勝の田中刑事選手をはじめ、世界で活躍するアスリートや日本スケート連盟の強化指定選手を多く輩出してきた。

本県の競技力向上のみならず、日本のフィギュアスケート界の競技力の向上に貢献し、その功績は顕著である。

● 野上 竜太 【自転車競技】

● 昨年、自転車スプリントで全国高校選抜、全国高校総体、JOCカップ、都道府県対抗、国民体育大会と主要5大会を完全制覇した。180センチ、78キロの堂々たる体格を生かした力強いペダリング、圧巻のスピードで、国内最強の称号をほしいままにした。中でも、8月JOCカップの1000メートルタイムトライアルで、ジュニア日本新(1分4秒938)は、平地で出した素晴らしい快記録である(前日本記録1分05秒238、高地(メキシコ)での記録である)。

岡山県自転車競技の隆盛を高めるとともに、今後のさらなる飛躍が期待される。

【マルセン文化賞】(副賞/30万円)

● 小出 公大 【郷土史家】

● 小出 公大氏は、以前から、史跡・旧跡・古墳・石造美術等々に関心を持ち、県内各地を巡って、それらを探訪することを趣味としていた。そんな中で、歴史的ゆかりの地なり貴重な文化財等が、時代の流れの中で、ややもすれば忘れ去られようとしている実態を見て、何とかならないものかと思っていた。

たまたま岡山県観光物産課に在職のとき、「源平藤戸合戦」から800年に当たることに気づき、以前から嗜んでいた謡曲の名曲『藤戸』が現在の倉敷市藤戸を舞台に構想されていることを思い出し、これに関する小冊子を取りまとめる決心をしたのが、後々続く冊子の編さんにつながった。

取材から刊行・配布まですべて自費での取り組みに、初めは難色を示していた奥様も、そのうちに氏の行動を理解されたのが、取材地に同行して写真撮影等に協力されるようになった。

これら冊子に掲載された写真・資料等は、現地に足を運んで取りまとめられた郷土の今日を切り取る歴史資料でもあり、地道な活動は、敬服するに値するものである。

● 須本 雅子 【工芸 染織】

● 平成9年全国伝統工芸品公募展に入賞。平成22年には、同展中小企業庁長官賞を受賞し、同25年には、同展で最高賞である内閣総理大臣賞を受賞する。氏は、岡山県の郷土伝統的工芸品に指定されている烏城紬の唯一の織元であり、この賞は、県内では初めてである。

烏城紬のルーツは、江戸時代後期に児島湾一帯で生産が盛んになった袴の織物業。糸紡ぎ・染色・機織りのすべてを一人で行い、平成7年から岡西公民館・灘崎公民館等で織物を教え、弟子は、約60人に上る。伝統工芸の担い手として、また、後継者の育成に取り組んでいる姿は、県民の誇りである。

● 藤原 洋次郎 【美術 現代アート】

● 国際的な規模でアート活動を展開している藤原洋次郎氏は、アーティストとして二つの顔を持っている。一つは、美しい抽象画を制作する画家としての顔。もう一つは、多くの参加者たちと共に無数のハンカチを用いて芸術空間(作品)を協働制作していく「ハンカチ・パフォーマンス」としての顔である。

特に、「ハンカチ・パフォーマンス」は、2000年以降の藤原氏を語るうえで大変重要な制作活動になっている。藤原氏は常々「アートは心の記憶装置である。」と述べているように、ハンカチをつなぎ合わせ、異なる場所の中で非日常的な空間を創出していく一連の作業行為を通じて、ネット社会が発達することによって次第に疎遠になりつつある人と人とのつながりやコミュニケーションの不足といった現代社会が抱えている問題、つまり人としての基本的営みの上で重要なファクターを再認識するために、芸術的体験を通しての問題提起でもあり、一つの解決策でもある。

また、教育者として、「アートを媒介とした医療福祉現場のコミュニケーション」をキーワードに国内外の現地の若い参加者と共に制作するスタンスは、岡山県内においても重要な役割を担っており、その活動と実績は素晴らしいものがある。アートを目指す若者に大きな希望の光、夢と感動を与えたその功績は誠に顕著である。

● 横仙歌舞伎保存会 【岡山県重要無形民俗文化財 伝統芸能】

● 平成8年と12年に後継者育成の観点から、歌舞伎専門職員の採用を奈義町に働きかけ、採用された職員に対しては、もっとも不足していた義太夫の語り手と三味線弾きの育成を行い、全国から注目を集めた。

平成11年からは横仙歌舞伎の素晴らしさを伝えるべく「四季の公演」と題した年4回の定期公演を続けており、また、県内外への出張公演も積極的に行うなど、横仙歌舞伎の周知に努めている。

平成17年からは地元小学校3年生の総合学習時間に1年を通して行う歌舞伎体験指導も行っており、こども歌舞伎は、横仙歌舞伎の見所として定着している。

平成25年度は、県立博物館主催の「吉備の国ジュニア歴史スクール」で歌舞伎講座を開催するなど、子どもへの教育にも熱心に取り組んでいる。

こうした積極的な活動は、伝統芸能の保存・伝承に大きく貢献するとともに、県内伝統芸能の範となっており、地域文化の向上に果たした功績は、顕著である。

※ マルセンスポーツ大賞・マルセン文化大賞の該当者は、ありませんでした。



受賞者からのひとこと

マルセン特別賞

音楽家・佐々木 英代



マルセン特別賞を頂いて
思うこと

この度誉れあるマルセン特別賞を頂きましたこと心より感謝し、お礼申し上げます。

“音”は私の“生”そのものかもしれないとつくづく思います。そして、私の総身に沁み込み私の知り得た美しい音・人の心を安らかにし穏やかにする音・淋しい目を希望に満ち輝く目にする音・人と人が和する気持ちを生み出す音・前を向いて生きる力を燃え立たせる音、それらの素晴らしい音・音・音を人々に伝える使命があると。

戦後まだ食べる物も着る物も不自由だった幼い頃、叔父の弾くアコーディオンやハーモニカに音楽の楽しさを知り、父が聴かせてくれたレコードから飛び出して来た美しい声を自分も出そうと毎日試みた小学一年生。月に一回だけ有る日本を代表する演奏家のコンサートにワクワクして欠かさず出かけた中学時代。本気で声楽を学び始めたのが高校二年。希望通りに国立音楽大学へ、何の障害もなくスルスルと進んだその頃の私には好きな歌を存分に学ぶ事だけで充足していました。そんな私の心に衝撃を与えたのがイタリア・オペラでした。本場の世界最高峰の声楽家の声と演技力で“オペラ”が人間の心を動かすものだと初めて知りました。そのショックが私に目標を与えてくれました。いよいよこれからだ！と意欲に燃え大学に残る決心をした私に師の四家文子先生は逆のことを言われました。「お帰りなさい。地方には地方でなければ出来ない事が有ります。勉強は何処に居ても出来ます。」その言葉の深い意味をずっと今も考え探し続けています。終りのない芸術の道程を歩み続ける中で、人を創り人を助け人を微笑ませ人と人を繋ぐ「音」の大切さを知りました。

今迄に感得した全てをそのままストレートに小学生に伝えている岡山県文化連盟の「出前講座」は、生徒のみならず現場の先生達も変化し育ってくださっています。ライフワークの「日本のうた講座」では、歴史と共に作曲家の姿と作品の数々を一般の方々が聴いて、初めて知る喜びを感じて下さっています。そして真の芸術家を目指す若い演奏家が次々にルネホールを基盤に育ってくれています。

歌うことは人間にとって「生命の源」その事を50年懸ってやっと解った私の背中を、ドンと押して元気付けてくださったのが、このたびの受賞です。

感謝の念を行動でお返ししたいと思っています。20年後30年後の岡山の音楽文化を支える人材を育てるのが最後の仕事です。

ありがとうございました。



マルセンスポーツ賞

柔道競技・IPU環太平洋大学女子柔道部



伝説の主将

全日本学生柔道優勝大会と全日本学生柔道体重別団体優勝大会において優勝したことは、史上初の快挙となった。この学生団体二冠を達成した陰には主将の存在が大きく影響した。彼女は、高校まで日本一になったことが無かったが、大学入学後すぐに全日本インカレ63kg級で優勝し、本学柔道部として初の学生日本一となってくれた。若いチームが殻を破り常勝軍団になるためには、チームメイトが日本一になることが何よりも近道となる。何故ならば、日本一の尺度を間近で感じることができるからだ。しかし、その彼女が3年後主将となり史上初二冠へ導くとはその時到底思えなかった。入学早々学生チャンピオンになってくれた彼女は、根は明るい気分屋なところがあつた。調子が良い時は明るい、思い通りにいかない時は、稽古中何を伝えてもまともに返事もしないような選手であつた。

ただ、練習に手を抜くことは一切無かつた。その甲斐あつてか、個人戦では1年生に続き2年生時も優勝し、学生日本一2連覇するまでに成長した。しかし、団体戦になると何故か不調になる。おそらく自分が絶対に一本勝ちしないとイケないと過剰に意気込むのだろう。彼女が絶不調のまま乗り込んだのが平成23年5人制団体だつた。これまで一度も入賞すらしておらず、昨年1回戦敗退した大会であつた。

顔色が冴えない彼女は、1回戦からメンバーを外し、初めて進出した準決勝からメンバーに入れた。準決勝直前のメンバー発表時も冴えない顔をしていた彼女が一変した瞬間があつた。それは、試合に送り出す直前に彼女の後ろから掛けた「お前を信じている！」という言葉だつた。振り帰つた彼女は久しぶりに見る満面の笑顔だつた。闘う相手は学生ながら当時の日本代表選手。なんと見事に投げとばして帰ってきたのだ。そして、その日の反省文に「史上初学生団体2冠し、個人では世界チャンピオンになる」と初めて覚悟が書いてあつた。しかし、残酷なことに学生日本一3連覇を目指した大会で前十字靭帯を断裂という大けがをしてしまう。1年間ハビリ生活であつたが、それでも彼女は腐らなかつた。2冠を目指す最後の年、4年生になり主将に抜擢された彼女は1つ目の団体戦にはまだ間に合わなかつた。しかし、自ら観客席で大声をあげてチームの為に応援団長を務め1冠を達成。続く2つ目の団体戦では何とか間に合い、最重量

級選手相手に戦い抜き2冠を達成した。現在は実業団選手として最後の目標である世界一へ向け毎日日本学で稽古に励んでいる。気分屋だつた彼女の存在は、今や日本一を目指すチームにとって大きく貢献してくれている。「世界チャンピオンになって先生を世界一の指導者にしたい」とあの時、覚悟と併せて書いてくれた反省文は私の宝物となっている。

柔道部監督 矢野 智彦



マルセンススポーツ賞

新体操・小川 晃平


 マルセンススポーツ賞
 受賞にあたって

この度はマルセンススポーツ賞という栄誉ある賞を受賞させていただき大変光栄に思っています。

私は小学校4年生の時に、元々体が柔らかかったこともあり、担任の先生に勧められて体験教室に行き、初めて男子新体操を見て、「カッコいいな」とか「自分もバク転をしてみたいな」という思いで始めました。

中学2年生・3年生の時には、全日本ジュニア新体操選手権大会で団体優勝することが出来ましたが、個人総合では中学3年生の時の準優勝が最高順位でした。

高校生になり1年生の時の全国高等学校総合体育大会では団体優勝する事が出来ましたが、個人ではなかなか勝つ事が出来ませんでした。そして3年生の時に全国高等学校新体操選抜大会で初めて個人総合優勝する事が出来、その後、全日本ユースチャンピオンシップ、全国高等学校総合体育大会でも個人総合優勝をすることが出来、個人総合三冠を達成する事が出来ました。

普段の練習はとてもキツくて嫌になったり辞めたいと思ったこともありましたが、試合が終わってみるとやってきてよかったと思えますし、みんなが喜んでくれている姿が見られた時には嬉しかったです。この結果は決して自分だけで勝ち得たものでなく、顧問の長田先生をはじめ、日頃から支えてもらっている家族、仲間、そして応援して下さった方々のおかげだと思っています。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

今後は、大学でも新体操を続け、全日本新体操選手権大会で個人総合優勝する事が出来るよう頑張りたいと思います。



マルセンススポーツ賞

サッカー競技・吉備国際大学女子サッカー部


 すべては
 笑顔のために

吉備国際大学女子サッカー部は2000年に創部し、14年目にして悲願の日本一、全日本女子サッカー選手権大会で優勝することができました。その背景には2011年から参入した日本女子サッカーリーグ、特にこの2年間、なでしこリーグ1部での挑戦は、若い選手たちにとって貴重な経験で逞しく成長できる舞台となりました。

なでしこリーグでの戦いでは、トップレベルの選手たちと自分たちとの力の差を改めて感じる事ができました。決めるべきところで決める、守るべきところで守るなど勝負強さがありました。また、力の差はもちろんのこと、特に今年の戦いにおいては自分たちの心構えの弱さも痛感でき、自分たちの課題を気づく事ができました。しかし、同時に激しくアグレッシブに、ひたむきに大学生らしく戦うことで、自分たちが押し出すべき長所を見つけるきっかけとなりました。

なでしこリーグやインカレ優勝を目指して戦い、そして、このトップリーグに参入させていただき戦わせていただいたのは応援して下さる地域の方々をはじめ、ご支援いただきましたスポンサーの皆様のおかげです。選手たちには、喜びも、悔しさも普通の大学生では味わえないとても貴重な経験をさせていただきました。また、選手たちが困難にぶつかった時にも温かく励ましていただき支えてくださいました。心から感謝を申し上げます。

今後の目標としては、吉備国際大学から世界へ羽ばたく人材を輩出することを目標に、日本女子サッカーの強化と発展のために、より変化、進歩、成長していくことのできる環境を整備し、世界を舞台に活躍する日本代表選手、情熱あふれる指導者やフロントマネージャーを養成していきたいと思えます。

これからも吉備国際大学女子サッカー部、FC吉備国際大学シャルムをよろしくお願いいたします。
監督 太田 真司



マルセンススポーツ賞 スケート競技・佐々木 美行



夢は叶う

オリンピック本番、高橋大輔はフリー演技開始早々、4回転ジャンプを転倒。その瞬間、日本中が溜息に包まれた。しかし、彼自身は、彼の演技を彼自身が楽しんで滑りきったのである。数分後、彼には会場からはもちろん、日本中から大きな拍手が送られていた。やがて、彼の胸には憧れのオリンピックメダルが！2月19日、感動の瞬間だった。

「もう無理かも…」「やめてもいいよ」と限界に近い精神的葛藤の末、手にしたメダルは銅。しかし、金以上のメダルだと私は思っている。選手としては致命的な半月盤断裂という大怪我を克服してのドラマチックなメダリスト誕生劇となったバンクーバーオリンピック。泣き虫だったおばあちゃん子の大輔君が、こんな形で帰省する日を迎えるとは想像していなかった。

彼に出会ったのは小学校2年生の冬、7歳でスケートを始めた。小学校高学年になってぐんぐん上達し、中学生になると海外遠征にも…。そのころ、口をついて出たのが「夢はオリンピック」という言葉。付き添っていたラジオ番組の収録でポロリと口にしてしまった。彼は、あわてて「夢、夢だから…」とはにかんだ姿が印象深く残っている。今思うと、素直で優しい少年だからもてた夢だったかも知れない。無心に氷上鬼ごっこを楽しんでいた大ちゃんは、その後、多くの人に出会い、支えられ、応援して頂き、幾多の挫折を克服し、世界一と賞される華麗なステップを身につけた。そして、今、彼の存在は「夢はあきらめず努力すれば叶う」という強烈なメッセージとなって多くの人々に勇気を与えている。こんな形で少年の夢にかかわることになった私には、「夢をもち努力すること」の素晴らしさを貴重な体験とともに伝えていくことが課せられていると感じる。寒さに負けず氷上鬼ごっこに歓声をあげ、子どもたちが今も彼の育った倉敷のスケートリンクに集まり、夢を追っている！高橋大輔も、また新たな夢に向かって走り始めようとしている！

最後になりましたが、マルセンススポーツ賞の受賞に深く感謝し、心よりお礼申し上げます。これを励みに、スケートの普及と才能ある選手の発掘・育成に力を注いで参ります。

(岡山県スケート連盟理事・倉敷フィギュアスケートクラブ監督)



マルセンススポーツ賞 自転車競技・野上 竜太



2020年へ向けて 自転車競技への想いと

この度はマルセンススポーツ賞というとても素晴らしい賞を受賞させていただき感謝の気持ちでいっぱいです。

私、野上竜太は自転車競技という少し特殊なスポーツを行っています。自転車競技とはその名の通り自転車で速さを競う競技です。私はこの競技を兄がやっているのを見てその背中を追ってこの競技を始めました。始めたばかりの時は練習も辛く、先生も厳しかったので少し失敗してしまったのかという思いが強く胸に引っかかっていた毎日を過ごしました。

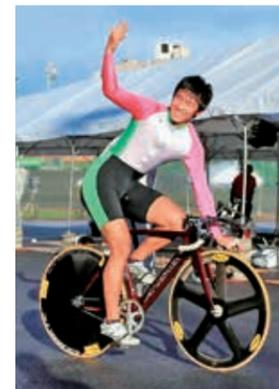
しかし、この厳しい生活を送ることで自分の競技力が着々と伸びていくことに少しばかりの喜びと楽しみを感じることができました。そうしているうちに全国大会で優勝できる競技力を育むことができました。この当時の指導者である岡山工業高校の「川口敬二先生」には自転車競技の技術だけではなく、同時に自転車競技の楽しさを教えていただきました。その先生の指導のもと自転車競技を行うことができたのは私の人生なかで一番幸せなことのひとつです。

こういった経緯で始めた自転車競技でマルセンススポーツ賞という素晴らしい賞を受賞することができたのは川口先生をはじめ、家族や周りの方々の支えがあってこそなことだと思います。

今後の抱負としては、活躍の場を日本だけにとどめるのではなく、世界を舞台にすることに目を向けたい。また川口先生に教えていただいた自転車競技の楽しさを日本中の人に理解し、知ってもらい自転車競技が国内においてメジャーになることに少しでも貢献できればいいなと思っています。そしてそのメジャー化に向けて一番大切な2020年の東京オリンピックにおいて金メダルを獲得することが私の競技人生においてこの上なく特別で大切な目標だと思います。

「舞台を演じることは誰にでもできます、しかし舞台を自分で作り上げることができなければ高みを目指すことはできない」この言葉を胸に少しでも皆様に恩返しと少しでも自転車競技またスポーツの本当の楽しさを感じていただけるよう今後も頑張ります。

(鹿屋体育大学1年)



マルセン文化賞

郷土史家・小出 公大



地域活性化の
一石にでもなれば……

この度は、思いもかけず、平成26年度マルセン文化賞を賜り、身にあまる光栄です。

私が郷土の身近にある小さな歴史や忘れられた文化財などに目を向け始めたのは、次のような経緯からです。

岡山県は、古くは「吉備の國」と呼ばれて、大和や出雲などと肩を並べる一大文化圏を形成していたところで、優れた文化財をはじめ、歴史的ゆかりの地その他は数え切れないほどあります。

しかし、かつては誰でも知っていたような歴史的な文化財などが身近にあるにも拘らず、核家族化の進展や新しい住宅地の形成などによって、それらのいわれや場所さえ知らない人が増えていることを常々残念に思っていました。

ところが、昨今は“地方の時代”などといわれて、郷土の良さを見直し、地域の活性化を図ろうとする活動が各地で活発化して来ていることは大変喜ばしいことで、大歓迎であります。

私は、かねてから、地域活性化のため何か新たに資源を作り出すのは大変な労力も時間も経費も必要となるだろうから、今あるもので使えそうなものは何でも、特に観光面では大いに活用してはどうか、という思いを持っており、もれには、モノの背景となった歴史や経緯や現状などを知っていてこそ活用方法なども検討できるのでは…と思うのです。

そこで、文化財保護などという大げさな観点ではなく、歴史などに興味のない人にも少しでも関心を持っていただけるならば、あるいは郷土再認識の一助にでも利用していただけるならば…との思いから、どのテーマでも簡単な要点説明に徹することに主眼を置いて冊子造りに腐心し、まとめて参りました。

今回の受賞を機に、この賞に恥じない執筆活動を続けたいものとの決意を新たにしているところであります。



マルセン文化賞

工芸 染織・須本 雅子



マルセン文化賞
受賞にあたって

この度は、マルセン文化賞を頂きまして誠に有難うございました。心よりお礼申し上げます。

私は現在岡山県指定郷土伝統的工芸品に指定されている「烏城紬」の三代目三宅務の長女として生まれましたので、父の後を継いで烏城紬を守って行く事を祖父母や両親も願っていたと思います。でも両親の苦勞している姿を見ていると後を継ごうという勇気もなくなり、昭和39年1月、結婚して神戸へ移りました。

二人目の出産のための里帰りの際、両親の頑張っている姿を見て、後を継がなかった事が本当に申し訳なく、悪い事をしたのではと考えるようになりました。それで私は両親が少しでも長く仕事を続けられるようにと考え、糸紡ぎの機械を神戸へ持って帰り、糸紡ぎだけでも手伝い始めました。

少しの手伝いだけでは…と益々申し訳なく思い、岡山に帰ることを主人に何回も頼みました。3年ほどたった頃、主人は帰ろうと言ってくれました。昭和48年に一家で岡山に転居、父の所へ通って教えてもらいました。

しかし、その後3年ほどで両親はともに病気になりました。わからないまま私なりに染織の全工程を一人でやりました。全工程を一人でやる事によって、その都度反省をし、悪い所を正しくやれるようになり、段々と自信もつきました。全工程を一人でやる事はとてもいい事だと思い、平成7年から岡西公民館で講座を始め、技術を後世に伝える事を目標に、講座生の方にも一人で全工程を行うことを教えました。今は20年続けています。3年ほど前から地元の灘崎公民館でも講座を始めました。多くの方にご参加いただき伝統技術を着実に伝えてほしいと願っています。

岡山へ帰り、烏城紬の制作を続ける事が私の一生の役目だったとつくづく思いました。文化賞を頂きました事は、一段と心をひきしめ、力の続く



かぎり頑張っていく事を教えてくださいました。これからも一人でも多くの方に講座で学んでいただき、岡山の地に烏城紬が末永く残り、伝統技術が引き継がれることを願って頑張ります。ありがとうございました。

最後に、貴財団のますますの御発展と関係者の方々に心より御礼申し上げます。

マルセン文化賞

現代アーティスト・藤原 洋次郎

マルセン文化賞
受賞にあたって

この度マルセン文化賞を頂き誠にありがとうございます。
私は教育関係の仕事で11年前、岡山に参りました。元々、地元を元気に
する目的で人々をつなぐ活動を画業の傍ら展開していました。岡山では
活動資金がないのでみんなが持っているハンカチを提供してもらってそ
れを材料にインスタレーション、パフォーマンスを仕組んでいました。

いつの間にかすっかり定着して、2003年頃からは美術館を舞台に
若い人たちと共に制作するアートになり、若者の活発な野外教育の一部
になりました。

岡山の土地が私の体質に合っていたことも幸いして、たくさんの方々
とお逢いしてハンカチアートも発展しました。今回の受賞は周囲の皆さん、
特に若者たちのお陰であり、この11年間の岡山の活動へのご褒美かと
改めて感じる次第です。

今回の選考理由は私の研究分野の一つである集団参加型の芸術活
動を通して人々とのコミュニケーションを豊かにするハンカチアートに有
ったとのことでした。

この研究のお陰で多くの人たちの感動や喜び合う表情、顔に出会い、
皆さんから評価を頂きそのことが新しいエネルギーとなり、作り手として
の発想や価値観をのびのび推し進めさせていただきました。「ハンカチ
パフォーマンス」は2003年以後の私の大変重要な制作活動になりまし

た。その事はもう一つの研究分野である
平面の制作「バロックから抽象表現の流
れにどのように自分の主張を織り込む
か」に悩んでいた私に嬉しい影響があり
ました。独りよがりになりがちな研究を岡
山で見事に整理していただいて、「良い
遊び心の表現は世界につながる」と思え
るようになりました。今後は個人の制作テ
ーマを昔、学んだ技術と方法から自由に
なった表現で実現することが皆様への
恩返しと考え努力して参りたいと思いま
す。

最後になりましたが今回の受賞にあたり、改めてご尽力いただいた方々に厚く
お礼申し上げます。



マルセン文化賞

伝統芸能・横仙歌舞伎保存会



今後の抱負

横仙歌舞伎は、江戸時代後期、出雲や播州から興業に来る芝居を地
元の若者が見よう見まねで始めたのが起こりといわれ、現在まで途絶える
ことなく続いています。

かつてはどの神社の境内にも歌舞伎専用の舞台があり、春秋の祭りには
奉納歌舞伎が上演されていました。神社の芝居は夕方に開演し、夜半
に及ぶまで続き、酒肴を持ち寄り楽しみ、芝居は村の社交場として昭和初
期まで大切にされました。

しかし、戦後の高度経済成長期には、テレビや映画などの新たな娯楽
の誕生や農村からの若者の流出などで次第に姿を消して行き、昭和40
年代には奈義町だけでも十数棟を数えた神社舞台も1棟のみ残して姿を
消しました。

そのような中、昭和41年、奈義町で保存伝承の中心となっていた故高
森源一氏の岡山県重要無形民俗文化技術保持者の指定を機に有志で
保存会が発足しました。その際奈義町の辺りを指す古い地名「横仙」を頂
き、横仙歌舞伎保存会と名乗り活動を始めました。

平成8年、12年には歌舞伎専門職員を採用しプロの演奏家の元で三
味線の研修をさせるなど積極的な伝承活動は全国から注目を集めました。

現在の地歌舞伎は岐阜県、愛知県を頂点に全国で二百以上の団体が
活動しており、西日本の保存団体はいずれも小規模で保存基盤も脆弱
なのが現実です。美作圏域でも各町にあった保存団体も現在は奈義町、
美作市で4団体となりました。

素人とプロの大きな差は演ずる側の満足も必要だということです。プロ
はお金を貰う以上、当然お客さんを楽しませることが目的であり、演者が
必ずしも楽しむ必要はありません。しかし、素人芝居は演者側の満足がな
ければ「また来年も」とはなりません。

今後の保存伝承は、視野を広げて県内外の保存団体と切磋琢磨し、
お互いに高めていくことを考えなければなりません。また、昔ならの芝居を
繰り返すだけでなく、話題を作り、インターネットなども積極的に利用し奈
義町から地歌舞伎の楽しさを発信していかなければなりません。

更に、奇をてらうことなく、地道に技術を高め、先人たちが残してくれた
地歌舞伎を次の世代へ受け継ぐことを大局観とし活動を展開して行か
なければならぬと考えます。

横仙歌舞伎保存会は平成28年には発足から50周年を迎えます。いく
ら時が流れても歌舞伎の本質は人の情であり、決して廃れることはありません。
歌舞伎の情と地歌舞伎の土臭い魅力を後世に伝えて行かねばならぬ
と覚悟を新たにしているところです。

会長 花房 昭夫



特別寄稿

公益財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団 監事・信朝 寛



今、思うこと

テレビから「マルセン・スポーツ・文化振興財団」の声が流れ、あの瀟洒なシンボルマークを見て、ニンマリすることが多い。

知名度が未だと思っていた財団も、昨年は、新しく衣替えをし、設立されてはや、12年間。その間、スポーツ、文化の各分野で国際的にも、また、全日本的な位置づけでも、活躍する人達や、団体が、この財団によって、顕彰されてきた。大きく胸を張ってもいいのではないかと思う。スケートの高橋大輔さんの、最高栄誉大賞をはじめ、サッカーの宮間、福元選手など国際的にも知名度の高い人達を顕彰しているのは嬉しいことである。

表彰された個人、団体の一覧表を見て、この岡山県にあって、スポーツ・文化の各分野で、地道に活動しているグループや、団体が如何に多いか驚かされる。

その昔と言うには、残念さがあるが、「教育県岡山」として、その名を全国に誇り、鼻高々であった時代がある。それに引き換え、現在は、教育の部門では後から数えたほうが早いというのは、何とした体たらくだろうと、残念さを乗り越えて、辛いことである。

教育県岡山。とりわけ女子教育の素晴らしさは、全国に誇りうるものであった。

私学の頑張りも、見逃せないことである。多くの素晴らしい先輩諸氏を輩出しているのもその証である。

低位に甘んじているものは、なんなのか。その原因は家庭なのか、地域社会なのか、教育界そのものなのかと、責任転嫁している時ではなく、岡山県にとって、喫緊の大きく深刻な課題であると思う。

オール評論家では、事は進まない。

小さな事でも、良とするものは、まず、取り組んでみることはないかと思う。県をあげて、取り組んでみることはないかと思う。県をあげて、真摯な努力が欲しいものである。

教育県として、全国にその名も高かったことは、岡山県への企業誘致にあたって、誠に好材料であったことがある。

貯蓄高、ピアノ保有台数、変わったところでは、喫茶店の数など、全国一、二を争った頃がある。

自然に恵まれた岡山県は、人を育てる環境にも恵まれているものと確信している。

その側面から、声をかけ後押しする大切さがある。人の背中を、ポンと押すと、その人は、トントンと前に進んで行く。

財団による顕彰は、岡山県民に喜びを与え「よしやろう!」と奮起を促すことにつながっている。

とりわけ、表彰事業につぐ助成事業ありがたいことである。

文化財的なものの保全、伝承等、今手をかけなければ、失われてしま

うのではないかと見られるものも多い。それぞれの地域で、立ち上がった人達、活発にしかも永続的に取り組まれているグループなど、敬意に値するものである。

お世話されている人達、貴重な時間を割いて、自らの生甲斐として指導下さっている方々など、そと目に見ても大変なご苦労だと思う。

総ての分野に亘ってではあるが、小さい頃から素質に恵まれている子供さんもいるが、隠れた素質を旨く引き出し、見事に花咲かせている例もあり、指導者のちょっとしたアドバイスありがたい。

人それぞれに、違いはあっても、「素晴らしい」「そこだ!」「その調子」と声かけられれば伸びて行くものである。声かけの大切さである。

各地域で、埋もれた文化財的なものを掘り起こし、将来へつないで行く事は、何にも増して大切なことである。助成事業は、そうした人達、地域を見落とすことなく、手を差し伸ばす素晴らしい事業である。華やかなものだけでなく、小さなものも掘り起こし、全国に誇り得る岡山県づくりに、一層頑張してほしい。



(護国山曹源寺「しだれ桜」 撮影：筆者)



贈呈式

と き:平成26年8月7日(木) 午前11時より

と ころ:ホテルグランヴィア岡山「フェニックス」

- 式次第:**
- | | |
|-------------|--------------|
| 1 開 式 | 5 特別賞受賞者あいさつ |
| 2 あいさつ | 6 助成金贈呈 |
| 3 来賓祝辞 | 7 助成団体代表あいさつ |
| 4 表彰状及び副賞贈呈 | 8 閉 式 |



第3章 イベントの開催(主催・共催)

1 スポーツ

● マルセンバスケットボール教室

- 平成26年9月15日(月・祝)
会 場: 倉敷市立東中学校体育館
- 共 催: 高松ファイブアローズ
- 主 管: 岡山県中学生バスケット連盟
- 参加者: 42名



● プロバスケットボール試合 「高松ファイブアローズ対大阪エヴェッサ」(共催)

- 平成26年11月2日(日)
会 場: 備前市総合運動公園体育館

2 文化

● (公社)岡山県文化連盟・文化講演会「文化のつどい」(共催)

- 平成26年8月7日(木) 会 場: ルネスホール
講 演: 「音楽と私」 講 師: 東京音楽大学ピアノ科専任講師 川島 基 氏
聞き手: フリーアナウンサー 西田 多江 氏



● マルセン親子写真教室

- 平成26年9月27日(土)
会 場: 龍の口グリーンシャワーの森
講 師: 難波 由城雄氏 (第10回マルセン文化賞受賞)
参 加: 10組22名の親子
その後ホームページ上での当日撮影作品コンテスト開催
難波先生に選出いただき、1位から3位を表彰



第4章 広報啓発育成事業

競技スポーツ等及び芸術性の高い音楽・演劇等の鑑賞の機会の提供を通じてスポーツ・文化の振興発展に寄与する。

1 啓発育成事業

ア チケットプレゼント

① スポーツ関係

- 山陽新聞レディースカップ チケットプレゼント
平成26年9月20日(土)～21日(日) 会場：東児が丘マリンヒルズゴルフクラブ
招待者：190名 応募：278通
- プロバスケットボール試合「高松ファイブアローズ対大阪エヴェッサ」
チケットプレゼント
平成26年11月2日(日) 会場：備前市総合運動公園体育館
招待者：8組(16名) 応募：11通

② 文化関係

- 親子で学んでんまや水族館
「オーストラリアの海とグレートバリアリーフの世界」
平成26年8月6日(水)～25日(月)10時～18時 会場：天満屋岡山店6階いせん会館
招待：50組(100名) 応募：188通
- 岡山フィルハーモニック管弦楽団 第46回定期演奏会
平成27年1月24日(土)15時開演 会場：岡山シンフォニーホール 大ホール
招待：20組(40名) 応募：250通
- 西洋と日本の架橋 倉敷「ダニエル・オストの花と心」展
平成27年3月1日(日)～4日(水) 会場：大原家本邸/有隣荘 大原美術館中庭
招待：100名 応募：はがき482通 メール93通 計575通
- トーベ・ヤンソン生誕100年記念「ムーミン展」
平成27年3月20日(金)～4月19日(日) 会場：岡山県立美術館
招待：150組(300名) 応募：はがき396通 メール383通 計779通



イ ホームページを通じての広報

ウ 機関誌「マルセン」11号の発刊

エ 活動助成団体ラジオ番組への出演

- RSKラジオ
 - パーソナリティ：メイン 奥富 亮子
 - 「おかやま朝まるステーション1494」(9:40～50放送内)
 - 期間：平成26年9月3日～11月19日 毎週水曜日 全12回
 - 出演者：平成26年度 助成団体対象
スポーツ関係：9団体 文化関係：13団体 計：22団体 出演

2 協賛・後援事業

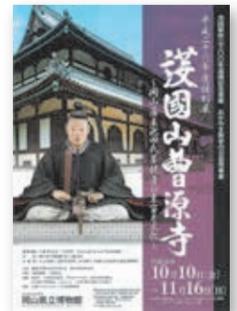
ア スポーツ関係

- 第10回岡山中央スポーツ少年団ソフトボール交歓大会(協賛)
主催：岡山中央スポーツ少年団ソフトボール部
平成26年4月13日(日) 会場：岡山中央小学校・岡山中央中学校 グランド
- 第30回全国選抜フットサル大会(協賛)
主催：一般財団法人岡山サッカー協会
平成26年9月13日(土)10時～9月15日(月)17時
会場：きびジアリーナ(総社市三輪1300)
- 第33回山陽女子ロードレース大会(協賛)
主催：中国陸上競技協会、岡山県、岡山市、
岡山市教育委員会、(公財)岡山体育協会、
岡山市体育協会、山陽新聞社
平成26年11月16日(日)
会場：岡山市内



イ 文化関係

- 第10回沙美アートフェスト(協賛)
平成26年5月10日(土)開催
会場：倉敷市沙美海岸 (53作品)
- 報告展
平成26年9月2日(火)～7日(日)
会場：倉敷市立美術館
- 池田綱政公300年遠諱記念事業
平成26年度特別展 護国山曹源寺
～岡山藩主池田氏菩提寺の至宝と文化～(協賛)
平成26年10月10日(金)～11月16日(日)
会場：岡山県立博物館 入館者数：8,179名
- 倉魂!高校生コミック・イラストコンクール2014(協賛)
募集：平成26年6月1日(日)～平成26年8月31日(日)
大賞(最優秀賞)〈1点〉 学長賞〈1点〉 優秀賞(アナログ・デジタル各部門)〈2点〉
特別賞〈2点〉 佳作〈13点〉 入選作品〈34点〉が選ばれました。
平成26年11月26日(水)～30日(日) 倉敷公民館 54点展示 応募(157点)
- 倉敷ダニエル・オストの花と心(名義協賛) — 西洋と日本の架橋 — (名義協賛)
平成27年3月1日(日)～4日(水)
会場：倉敷大原家本邸/有隣荘(旧別邸) 大原美術館 工芸・東洋館中庭



ホットコーナー

倉敷中央高陸上部・荒島 夕理

400m 障害で = 進化 今季も高校3冠目指す

「夢叶(かな)う」。ウインドブレーカーに、星のマークとともに刺しゅうされた3文字が燦(さん)然と輝いて見えた。倉敷中央高陸上部の荒島夕理選手。女子400m障害で昨年、2年生ながらインターハイ、日本ユース選手権、国体の高校3冠を獲得した期待の成長株だ。

ショートカットに笑顔が愛くるしい17歳。だが、ひとたびトラックに立ち、ハードルを前にすると闘争心むき出した。「一直線に進んじゃうんで」。練習ではタイム設定を無視し同僚を置き去りに。森定照広監督も「少しは頭を使えと言うんですけど」と苦笑いするが、その集中力はすさまじい。高校3冠が懸かる昨秋の長崎国体陸上少年女子A400m障害決勝。ダイナミックなストライドで飛び出すと、最後の10台目を越えて驚異の粘りを見せ、並走する超高校級の好敵手をねじ伏せた。タイムは自身の持つ岡山県新記録に並ぶ58秒76だった。

陸上との出会いは岡山市・陵南小4年のとき。クラスの女子で短距離が1番になり、母親の勧めでクラブチームに入った。当初は遊び感覚が抜け切れない

かったが、6年になって100mの記録が伸び始めて夜間の特別練習に呼ばれるようになり「本気で上を目指すようになった」という。

岡山市・吉備中時代には、県中学生選手権の女子200mの記録を2年で塗り替え、400mリレーでは全国中学校大会優勝の立役者となるなど頭角を現す。3年から100m障害にも挑戦し、姉も学んだ森定監督がいる倉敷中央高陸上部の門をたたいた。

やり投げの選手だった森定監督は、同種目の久世生宝(筑波大)、走り幅跳びの早坂知華(同)ら名選手を育成している。荒島選手の転機はひと冬越した高校2年春の県記録会。400mで「完璧の55秒台」を出したことで、同じ距離のハードルで8月のインターハイを目指すことになった。ハードル間の歩数は人それぞれ違う。荒島選手は身長164cmの長い手足を生かし、国内トップでも珍しい15歩のインターバルを6台目まで維持できるのが強みだ。「股関節が軟らかく着地の際、腰の位置から足先まで一直線に伸びる。持久力もあり終盤粘り強い」。森定監督がその素質を見抜くように、まさに無限の可能性を秘めている。

荒島選手には良きライバルがいる。昨年、国体の少年女子共通800m、日本ユース400mの覇者で、400m障害はインターハイ2位の石塚晴子選手(東大阪大敬愛高)だ。オリンピック育成競技合宿で同部屋となって以来、練習方法をアドバイスし合う仲だが、今季、400m障害のタイトルを狙う石塚選手に対し「そこは譲れないですね」と王者のプライドをのぞかせる。

今後いろいろな刺激を受け、ときには挫折を経験しながら進化を続けるに違いない。最高学年で迎える今季は「400m障害で再び3冠を達成して、20年以上破られていない日本高校記録(57秒65)を塗り替えたい」と意気込む。森定監督も大学生、社会人となる将来を見据え「弱かりし小学生のころ、強い人を見ていたときの気持ちを忘れずに」と、常に

挑戦を恐れない姿勢を説く。

最後に22歳で迎える東京五輪について聞いてみた。「まだ現実味はないけど」と少し遠慮しつつ、「出たいです」ときっぱり。「迷ったら行け」と、恩師に

背中を押され果敢にハードルを飛び越えてきた少女の夢の続きは、日の丸を背負う舞台にアーチのように架かっている。

(本文、写真ともに山陽新聞社提供)



長崎国体の陸上少年女子A400m障害決勝。驚異の粘りでラスト勝負を制した=昨年10月、長崎県立総合運動公園陸上競技場



Yuri Arashima

高校3冠を達成し長崎国体の表彰式では満面の笑顔



姉も学んだ森定監督には大きな信頼を寄せている

MEMO

倉敷中央高普通科・健康スポーツコースに在籍。毎朝6時半に自宅を出て電車を乗り継ぎ部活の朝練に参加する。学校での楽しみは「栄養士に興味を持っている」と言うように家庭科の調理実習。数学は苦手とか。

元プロテニス選手・松岡修造氏のような「熱い人」がタイプで、タイムが伸び悩むときは松岡氏の番組を見て「元気をもらっています」。試合前夜はゆずの「栄光の架橋」「虹」を聞いて気持ちを高ぶらせる。両親、姉と4人暮らし。いつも試合に駆け付ける母からは「あんたらしくおればいいよ」と励まされている。血液型はO型。



瀬戸内市の備前焼作家・森 陶岳氏

古備前の神髄へ 中近世の大窯 再生プロジェクトがクライマックス

“命の炎”を吹き込まれた“巨竜”が山肌を一直線に駆けのぼるようだ。作家人生を懸けて、中近世の大窯を再現するプロジェクトに挑む備前焼の岡山県重要無形文化財保持者・森陶岳氏(77)＝瀬戸内市牛窓町長浜。この春、その集大成となる「寒風新大窯」の窯焚(た)きがクライマックスを迎えている。

全長85㍍、幅6㍍、高さ3㍍。空前の新大窯は、自動車が行き交えるほどのトンネル構造だ。中には「五石甕(ごこくがめ)」(焼成前の高さ1.65㍍、胴径1.4㍍、容量約900㍓)など大甕97点をはじめ、門下の花入れや壺(つぼ)、芋徳利(とくり)など中小の作品を含めて数千点が収められている。

築窯に8年、作品制作に5年余をかけて、今年1月4日に火入れが行われた。窯に煙を満たす「くゆし」、1カ月以上をかけてゆっくりゆっくりと窯の温度を400度まで上げる「あぶり」を経て「中焚き」、「本焚き」、そして窯全体に火を巡らす「横焚き」まで、焼成だけで3カ月超。燃料には4千トンのまきを使う。空前の窯焚きが始まって3週間余りの1月下旬、焚

き口の前で陶岳氏は「五感すべてを覚醒させて、目標を目指す」と力を込めた。

備前市伊部、備前焼窯元の長男に生まれ、岡山大教育学部特設美術科を経て1962年から作陶生活に入った。30代前半で日本陶磁協会賞を受賞するなど若くして注目を集めたが、古備前が発するエネルギー、生命力に魅せられて70年ごろ、古備前を生んだ大窯の再現を思い立つ。

兵庫県相生市に築いた全長46㍍、幅2.7㍍の窯を皮切りに、81年から現在地で全長53㍍、幅2.5㍍の「寒風大窯」を築造。6回の焼成で、土作りや焼成方法の検証を重ねた。それによって得られたのは、現代備前と古備前との差が大窯によって埋められるという確信であり、焼成のたびに発見した想像を超える「不思議な焼け」だったという。「広大な空間での長時間の焼成がもたらした神秘としかいいようのない変化」(陶岳氏)を追求した結果、新大窯は、国史跡・伊部南大窯跡の最大の大窯(全長53㍍、最大幅5.2㍍)をしのぐ規模になった。

「備前すり鉢投げても割れぬ」「備前水甕水がくさらぬ」。民間伝承にあるように、備前焼はその堅牢(けんろう)さと品質で中世の西日本を席卷した。瀬戸内海からは大量の備前焼を積んだ沈船が発見され、沖縄の首里城をはじめ各地の城跡から多くの備前焼が出土する。千利休が茶道を確立した桃山時代には茶陶として珍重された。

陶岳氏が目指すのは、そんなエネルギーに満ちた古備前の神髄だ。ただ、新大窯に火が入ってみると、過去に手掛けた大窯とは異なっていた。内部の温度変化が複雑で定まらない。炎が不規則に流れる。陶岳氏は「不安が大きくないとはいえない」と本音を漏らす。予想外の炎の流れは予想外の「不思議な焼け」「神秘」にもつながるはずだ。

「焼成が成功すれば、過去の陶工と肩を並べられる。でも私の使命は、この成果を生かして次なる備前焼を創作することにある」。その先を見つめる陶岳

氏の鋭い眼光に、大きな手に、太い声に、中世の名もなき陶工たちの魂が宿っているように感じられる。

焼成が終わっても、窯の冷却に約3カ月を要し、窯出しは年末まで続く。作品のお披露目は2016年

春の予定。備前焼の長い歴史に新しいページを開く春になるだろう。全国の陶芸ファンとともに、瀬戸内市の“巨竜”を見守っていききたい。

(本文、写真ともに山陽新聞社提供)



弟子たちと三代で窯焚きに当たる陶岳氏＝1月28日



Tougaku Mori

大窯プロジェクトの最終段階を迎え、意気込みを語る森陶岳氏



窯詰めを終えてホッとした表情の陶岳氏ら＝2014年9月22日



備前焼史上空前の規模を誇る「新大窯」(右)

略歴

もり・とうかく 1937年備前市生まれ。本名・才蔵。59年岡山大教育学部特設美術科卒。66年日本工芸会正会員となり、69年日本陶磁協会賞、96年山陽新聞社賞、2002年日本陶磁協会賞金賞、06年三木記念賞など受賞。1996年に岡山県重要無形文化財保持者に認定された。



(II)財団の活動

法人管理

1 会議等

●評議員会

- (1)書面による定時評議員会 平成26年6月20日(金)
 - ①平成25年度事業報告及び収支計算報告について 承認
- (2)臨時評議員会 平成27年3月20日(金)
 - ①平成27年度事業計画案について
 - ②平成27年度収支予算案について

●理事会

- (1)第1回定時理事会 平成26年6月2日(月)
 - ①平成25年度事業報告及び収支計算報告について 承認
 - ②平成26年度マルセンスポーツ・文化賞候補者について 承認
 - ③選考委員の交代について 承認
 - ④平成26年度定時評議員会の書面による開催について 承認
- (2)書面による臨時理事会 平成27年3月10日(火)
 - ①平成26年度臨時評議員会(H27年3月)の開催について
- (3)第2回定時理事会 平成27年3月20日(金)
 - ①平成27年度事業計画案について
 - ②平成27年度収支予算案について
 - ③平成27年度マルセンスポーツ・文化活動助成事業案について
 - ④選考委員の選任について

●監査 平成26年5月28日(水)

●選考委員会

- (1)表彰・協賛・後援事業 平成26年5月26日(月)
- (2)助成・協賛・後援事業 平成27年2月27日(金)



2 ホームページの管理

- リニューアル 平成23年7月30日
- 新CM更新 平成26年6月4日

3 機関誌「マルセン」11号の発刊

4 ラジオ番組への出演

- RSKラジオ パーソナリティ：奥富 亮子
- 「おかやま朝まるステーション1494」(9:40～9:50放送内)
- 期 間：平成26年9月3日～11月19日 毎週水曜日 全12回
- 出演者：平成26年度 助成対象団体(全26団体)
 - スポーツ関係：9団体 文化関係：13団体
 - 計：22団体 出演

活動助成事業 広報実績のまとめ 記載例 1 スポーツ①

第9号様式

広報用実績のまとめ

H26年度

団体名	岡山県ダンススポーツ連盟 代表者 尾原 道興理 記載者 守谷和正
所在地(市区町村名のみ)	岡山県浅口郡金光町
活動目的	岡山県のダンススポーツの振興を図り、県民の心身の健全な発達ならびに文化の向上に寄与する
団体の紹介	ダンススポーツの普及、拡大を目的として以下の事業を行っています。 ダンススポーツ競技大会、講習会、交流会などの開催 全国大会、国民文化祭等への選手派遣 各種会員サービス
助成を受けての活動内容	9月7日に岡山県体育館(桃太郎アリーナ)にて、第9回岡山県ダンススポーツ競技大会を開催しました。 県内外よりジュニアから80代までの幅広い年代の方が多数参加し、一般ダンス愛好者など誰でも参加出来るクラスから最上位級のAクラスまで開催されました。スタンダード部門Aクラスでは岡山県の選手が優勝するなどの活躍がありました。
助成を受けての成果	助成により良質な競技大会を盛大に開催する事ができました。 またダンススポーツの知名度向上にもつながりました。
今後の活動の課題点	競技スポーツ、生涯スポーツとしてのダンススポーツの知名度を上げ大会の参加者及びダンス愛好者を増やしていきたいと思っております。
問い合わせ連絡先もしくは、ホームページアドレス(加入希望の方などへのお知らせなど)	守谷和正 kazu34123@yahoo.co.jp HPアドレス http://www.jdsf.or.jp/okayama/

※ このページは、財団ホームページや印刷物などで公表される資料として使用される場合があります。A4用紙1枚程度におまとめください。(他の報告書との重複可) 写真・チラシ・パンフレット(PDFもしくは、画像)等を添付していただいても結構です。



活動助成事業 広報実績のまとめ 記載例 ① スポーツ②

第 9号様式

広報用実績のまとめ

H26年度

団体名	片上スポーツ振興会	代表者	会長 森山 純一	記者	森川 太
所在地(市区町村名のみ)	備前市				
活動目的	レクリエーション、スポーツを通して片上地区住民の親睦と協調性を深める				
団体の紹介	昭和51年11月『ファミリー協会』として発足。4年前の平成22年4月には、『片上スポーツ振興会』と名称を変更した。 片上地区住民が誰でも気軽に参加できるレクリエーション、スポーツの場として、運動会を中心にバレーボール、ベタンク、グラウンド・ゴルフ、マラソン・なわとび大会などを開催している。役員は約80人で構成。				
助成を受けての活動内容	晴天にも恵まれた9月28日 片上小学校の運動会終了後、片上地区町内会(約1,300世帯)をあげての年一度の行事、第38回 片上地区ファミリー運動会が開催された。 運営は、5年前から、片上地区在住の中学生加わり、片上地区住民総勢100人のボランティアで行っている。 運動会は、片上地区16町内会を7チームに分けての対抗戦なので、高齢者から幼児に至るまで、みんなで力を合せて玉入れ、パン食い競争、綱引き、大なわとびなど13種目の競技を行った。 特に、ラストプログラム『年齢別リレー』では、今年も、皆総立ちになって応援し、走者も必死で走り通し、大変な盛り上がりを見せた。 片上地区住民の親睦と協調性を深める重要なイベントのひとつである。				
助成を受けての成果	プリンターつきストップウォッチにより、年齢別リレーなどの正確なタイムや他の種目にかかる時間を計ることが出来るので、今後の時間配分のめやすになり、充実した運営が出来るようになった。 また、ファミリー運動会にかかる経費の負担が軽くなり、有難く思っている。				
今後の活動の課題点	片上スポーツ振興会は、地区住民の一世帯あたりの会費で賄っている。ところが、年々、地区住民減少に伴い、会費は減っていく一方で、今後、運営が維持出来るかどうか危惧している。 また、年々、役員の高齢化に伴い、運営自体難しくなるので、若年層の参加を呼びかけていく必要がある。				
問い合わせ連絡先もしくは、ホームページアドレス(加入希望の方などへのお知らせなど)	〒705-0021 備前市西片上17-2 市民センター内 片上公民館 館長 森川 太 電話(0869)64-1135				

※ このページは、財団ホームページや印刷物などで公表される資料として使用される場合があります。
A4用紙1枚程度におまとめください。(他の報告書との重複可)
写真・チラシ・パンフレット(PDFもしくは、画像)等を添付していただいても結構です。



活動助成事業 広報実績のまとめ 記載例 ② 文化①

第 9号様式

広報用実績のまとめ

H26年度

団体名	倉敷管弦楽団	代表者	田辺 幹夫	記者	松江 雄二
所在地(市区町村名のみ)	倉敷市				
活動目的	演奏を通じて団員相互の親睦と演奏技術の向上を図り、同時に演奏活動を通じて地域社会の文化の向上に寄与する。				
団体の紹介	本楽団は、「美しい音色と良いアンサンブルで質の高い演奏を」を合言葉に昭和49年に設立され、文化都市倉敷にふさわしい熱気に満ちた楽団として活動を続けています。地域に根ざした音楽活動を地道に行うとともに、オペラ、ミュージカル、バレエなどの公演に参画しています。 さらに、プロの演奏家との共演や、県内のオーケストラを聴く機会の少ない地域や学校に出向いての演奏など、地域の文化向上に寄与するとともに、クラシック音楽だけでなく、現代曲やポピュラー音楽などのレパートリーを増やす努力も行っていきます。				
助成を受けての活動内容	1. 平成25年4月、当団役員会で、創立40周年記念演奏会でマーラー／交響曲第5番を演奏することを決定。 2. 平成25年7月より、同曲の練習開始。 3. 平成26年2月、指揮者小松長生氏の初練習。示唆を含む多くの指導をいただいた。 4. 同年4月から、本格的に練習に取り組んだ。全体合奏練習とともに、弦楽器、管楽器の団内トップ奏者による分奏も併せ実施、細部にわたり練習に取り組んだ。この間、小松氏には合計8回の指導をいただいた。 5. 平成26年6月29日(日)倉敷市民会館にて第40回定期演奏会を開催し、成果を披露し、好評を得た。 ドビュッシー／小組曲 マーラー／交響曲第5番				
助成を受けての成果	マーラーの交響曲第5番は、1時間を超える大作で、かつ、人生の葛藤、癒し、天国、喜びが表現されており、芸術的にも深い内容をもっている。また、演奏技術的にもレベルが高いため、長期にわたり、進歩が実感できないもどかしさがあった。小松氏の適切なご指導により団員の音楽に対する理解が深まり、徐々にではあるがマーラー音楽の真髄を感じられるようになった。本番では、熱のこもった満足できる演奏ができた。団員の多くが涙し、観客からも惜しみない拍手をいただいた。来客アンケートからも感動的であったとのコメントを複数いただいた。40周年の節目にふさわしい成果を挙げたと自負している。				
今後の活動の課題点	会場の収容人員1900名に対して、実際の入場者数828と約半分であった。出演者、来場者とも満足できる公演であったことから、もう少し多くの方に聴いていただきたかった。演奏会の内容を吟味し、お客様にアピールできるコンサートを企画する。また、団員の集客努力に加え、広報機能を強化し、マスコミ、学校、他の音楽団体等への広報を積極的に行っていく。				
問い合わせ連絡先もしくは、ホームページアドレス(加入希望の方などへのお知らせなど)	http://kurakan.org/kurakan-blog				

※ このページは、財団ホームページや印刷物などで公表される資料として使用される場合があります。
A4用紙1枚程度におまとめください。(他の報告書との重複可)
写真・チラシ・パンフレット(PDFもしくは、画像)等を添付していただいても結構です。



活動助成事業 広報実績のまとめ 記載例 2 文化②

第 9号様式

広報用実績のまとめ

平成 26 年度

団体名
つやまこどもオンステージ実行委員会 代表者 山岡 典子 記者 足立 温美
所在地(市区町村名のみ) 岡山県津山市山下68 津山文化センター内
活動目的 校外活動として、多彩な文化的分野で活動している津山地域の幼稚園・保育園児から高校生までを中心とした子どもたちの活性化を目指し、一堂に会して発表を行なう。
団体の紹介 主催である つやまこどもオンステージの実行委員会を津山文化センター内におき、(公財)津山文化振興財団の共催により、平成10年から毎年12月に開催され、今回で17回目を迎えたつやまこどもオンステージ。少子化の影響を受け出演人数が減少傾向にあることでチケット収入も減少しているが、新たに確立されたジャンルも加わりながら、幅広いジャンルにわたった団体が一度に集結する合同発表会。子どもたちにとっては大きな舞台となる津山文化センターで発表を行なうことで子どもたちの個性や創造性を伸ばし、子どもたちが活躍できるような催しとして毎年、年に1度開催している。
助成を受けての活動内容 第17回つやまこどもオンステージ 12月21日(日)、13時～20時 : リハーサル 12月22日(月)、14時～20時 : リハーサル 12月23日(火)、11時00分～ : フィナーレリハーサル、12時30分開場、13時00分開演 チケット料金 : 800円(3歳以下無料) ※全席自由 1・2F席 会場 : 津山文化センター 大ホール 出演団体 : 11団体、出演者数:242名、入場者数:838名 初参加1団体を含め合計11団体の参加で、日本舞踊、和太鼓、郷土民芸 銭太鼓・傘踊り、クラシックバレエ、モダンバレエ、タップダンス、ストリートダンス、ブレイクダンス、フリースタイル、合唱と幅広いジャンルでの開催となった。また、全団体が舞台上に集結してのフィナーレでは、練習時間は少なかったものの、観客も一体となり、タップダンスを踏みながら合唱をするという初めての試みにもチャレンジし、盛り上がりを見せた。
助成を受けての成果 今回の助成をうけ、リハーサルをはじめ、有効な舞台活用が可能となり、新たな取り組みにもチャレンジできたことで、本番では子どもたちが1年の練習の成果を津山文化センターの舞台上で力いっぱい発表できる結果となった。また、予算を回せたことでスタッフによる手作りではあるものの、舞台をより盛り上げることのできる会場作りも可能となった。その他含め、出演者の皆様や観客の皆様方にもより満足いただける催し物となったことは大きな成果であった。
今後の活動の課題点 チラシ・ポスターの配布拡大、ホームページやSNSにおける更なるPR活動はもとより、時代の流れも上手く取り入れ、参加出演者の発表の場としてより魅力的な舞台・会場作りをすることで新たな参加団体の獲得、また集客の増員を図っていく必要がある。
問い合わせ連絡先もしくは、ホームページアドレス(加入希望の方などへのお知らせなど) つやまこどもオンステージ実行委員会 (津山文化センター内) Tel.0868-24-0201 Fax0868-24-1199 E-mail:bunka-c@tvt.ne.jp

※ このページは、財団ホームページや印刷物などで公表される資料として使用される場合があります。
A4用紙1枚程度におまとめください。(他の報告書との重複可)
写真・チラシ・パンフレット(PDFもしくは、画像)等を添付していただいても結構です。



DATA ● 資料



事業の記録

1 助成の記録

●第10回 交付式(ホテルグランヴィア岡山)

月日	区分	予算	応募数	助成数	助成額	
25.10.24	スポーツ	100万円	18件	13件	1,300,000円	合計 30件 3,000,000円 累計 226件 26,711,313円
	文化	100万円	57件	17件	1,700,000円	

●第9回 交付式(ホテルグランヴィア岡山)

月日	区分	予算	応募数	助成数	助成額	
24.8.27	スポーツ	100万円	24件	10件	970,000円	美作国建国1300年記念事業実行委員会 30万円 合計 25件 2,670,000円 累計 196件 23,711,313円
	文化	100万円	56件	14件	1,400,000円	

●第8回 交付式(ホテルグランヴィア岡山)

月日	区分	予算	応募数	助成数	助成額	
23.7.12	スポーツ	100万円	25件	10件	986,000円	合計 21件 2,011,628円 累計 171件 21,041,313円
	文化	100万円	46件	11件	1,025,628円	

●第7回 交付式(ホテルグランヴィア岡山)

月日	区分	予算	応募数	助成数	助成額	
22.7.5	スポーツ	100万円	11件	8件	717,020円	第25回国民文化祭おかやま2010 100万円 合計 22件 2,977,020円 累計 150件 19,029,685円
	文化	100万円	43件	13件	1,260,000円	

●第6回 交付式(ホテルグランヴィア岡山)

月日	区分	予算	応募数	助成数	助成額	
21.7.27	スポーツ	100万円	19件	10件	959,115円	第25回国民文化祭おかやま2010 100万円 合計 25件 3,258,115円 累計 128件 16,052,665円
	文化	100万円	42件	14件	1,299,000円	

●第5回 交付式(ホテルグランヴィア岡山)

月日	区分	予算	応募数	助成数	助成額	
20.7.29	スポーツ	100万円	34件	10件	996,410円	県立総社南高等学校ダンス部保護者会 100万円 合計 21件 2,996,410円 累計 103件 12,794,550円
	文化	100万円	45件	10件	1,000,000円	

●第4回 交付式(ホテルグランヴィア岡山)

月日	区分	予算	応募数	助成数	助成額	
19.7.24	スポーツ	100万円	31件	10件	964,500円	合計 21件 1,994,500円 累計 82件 9,798,140円
	文化	100万円	53件	11件	1,030,000円	

●第3回 交付式(ホテルグランヴィア岡山)

月日	区分	予算	応募数	助成数	助成額	
18.7.21	スポーツ	100万円	36件	10件	970,000円	合計 20件 1,962,000円 累計 61件 7,803,640円
	文化	100万円	27件	10件	992,000円	

●第2回交付式(ホテルグランヴィア岡山)

月日	区分	予算	応募数	助成数	助成額	
17.8.3	スポーツ	100万円	34件	10件	988,640円	晴れの国おかやま国体 100万円 合計 21件 2,988,640円 累計 41件 5,841,640円
	文化	100万円	24件	10件	1,000,000円	

●第1回 交付式(ホテルグランヴィア岡山)

月日	区分	予算	応募数	助成数	助成額	
16.12.14	スポーツ	100万円	31件	10件	1,000,000円	晴れの国おかやま国体 100万円 合計 20件 2,853,000円
	文化	100万円	15件	9件	853,000円	

2 表彰の記録

●第10回 贈呈式(ホテルグランヴィア岡山)

月日	区分	賞	氏名	種別
25.10.24	スポーツ	大賞	荒木 絵里香 福元 美穂 宮間 あや 清水 聡 山口 舞	バレーボール競技 サッカー競技 サッカー競技 ボクシング競技 バレーボール競技
			大賞	水戸岡 鋭治
	文化	賞	上田 久利 岡山パッハカンタータ協会 草間 喆雄 鴻八幡宮祭りばやし保存会 難波 由城雄	美術 彫刻 音楽 合唱 美術テキスタイル 無形民俗文化財 伝統芸能 美術 写真
		特別賞	佐藤 常子	工芸 染織

●第9回 贈呈式(ホテルグランヴィア岡山)

月日	区分	賞	氏名	種別
24.8.27	スポーツ	特別賞	福元 美穂 宮間 あや 小谷 眞三 森川 星葉	サッカー競技 サッカー競技 美術 工芸 美術 書道
			賞	奥村 諭志 勝又 雅弘 田中 太郎
	文化	賞	池上 わかな 作元 朋子 榎木 和敬 桃太郎少年合唱団	美術 洋画 美術 陶芸 音楽 声楽 音楽 合唱

●第8回 贈呈式(ホテルグランヴィア岡山)

月日	区分	賞	氏名	種別
23.7.21	スポーツ	大賞	該当者なし	
		賞	小野 陽平 川口 敬二 興譲館高等学校陸上競技部 永木 伸児 中野 真奈美 藤田 健児	テニス競技 自転車競技の指導 陸上競技 空手道競技 サッカー競技 ボクシング競技
	文化	大賞	重松 清	文芸 小説
		賞	沢田 虚遊 宮内踊保存会	書道 無形民俗文化財 伝統芸能
	特別賞	天満屋女子陸上競技部	陸上競技	

●第7回 贈呈式(ホテルグランヴィア岡山)

月日	区分	賞	氏名	種別
22.7.5	スポーツ	栄誉大賞	高橋 大輔	スケート競技 フィギュア
		大賞	新田 佳浩	スキー競技 クロスカンントリー
		賞	井上 正 県立玉野光南高等学校陸上競技部 皇后杯第28回全国都道府県対抗女子駅伝 岡山県チーム	新体操競技の指導 陸上競技 陸上競技
	文化	大賞	井手 康人	美術 日本画
		賞	高田神社横野獅子舞保存会 諸星 美喜	無形民俗文化財 伝統芸能 美術 日本画

●第6回 贈呈式(ホテルグランヴィア岡山)

月日	区分	賞	氏名	種別
21.7.27	スポーツ	大賞	該当者なし	
		賞	岡山県作陽高等学校ゴルフ部 木村 禎宏 山陽女子高等学校 体操部 平林金属男子ソフトボールクラブ	ゴルフ競技 車いすテニス競技 体操競技 ソフトボール競技
	文化	大賞	高原 洋一	美術 洋画 版画
		賞	大島の傘踊り保存会 片山 康之	無形民俗文化財 伝統芸能 美術 彫刻

事業の記録

●第5回 贈呈式(ホテルグランヴィア岡山)

月日	区分	賞	氏名	種別	
20.7.29	スポーツ	大賞	天満屋女子陸上競技部	陸上競技	
		賞	県立新見高等学校ソフトボール部 県立新見高等学校軟式野球部	ソフトボール競技 軟式野球競技	
			福元 美穂 宮間 あや	サッカー競技 GK サッカー競技 MF	
	文化	大賞	該当者なし		
		賞	井手 康人 小川 尊一 神代郷土民謡保存会 津山市立北陵中学校吹奏楽部 明誠学院高等学校書道部	美術 日本画 美術 洋画 無形民俗文化財 伝統芸能 音楽 吹奏楽 書道	

●第4回 贈呈式(ホテルグランヴィア岡山)

月日	区分	賞	氏名	種別
19.7.24	スポーツ	大賞	該当者なし	
		賞	麻生 薫 岡山県作陽高等学校サッカー部 岡山湯郷Belle	ハンドボール競技の指導 サッカー競技 サッカー競技
			長田 京大 牧野 吉伸	新体操競技の指導 ウエイトリフティング競技の指導
			山口 松太	漆芸
			多胡 昭彦 田丸 稔 宮尾 昌宏	天文学 美術 彫刻 工芸 陶芸
	文化	大賞	山口 松太	漆芸
		賞	多胡 昭彦 田丸 稔 宮尾 昌宏	天文学 美術 彫刻 工芸 陶芸

●第3回 贈呈式(ホテルグランヴィア岡山)

月日	区分	賞	氏名	種別		
18.7.21	スポーツ	大賞	高橋 大輔	スケート競技フィギュア		
		賞	樺村 正明 古川 興幸 森政 芳寿	ソフトテニス競技の指導 レスリング競技の指導 陸上競技の指導		
			文化	大賞	あさの あつこ	文芸 児童文学
				賞	川島 基 難波 滋 福石神楽団	音楽 ピアニスト 美術 洋画 無形民俗文化財 伝統芸能
	特別賞	岡山県剣道連盟 岡山県山岳連盟 岡山シーガルス 関西高等学校ボート部			剣道競技 山岳競技 バレーボール競技 ボート競技	

●第2回 贈呈式(ホテルグランヴィア岡山)

月日	区分	賞	氏名	種別
17.8.3	スポーツ	大賞	水鳥 寿思	体操競技
		賞	石本 直樹 諸見里 しのぶ 横山 純子	ベンチプレス競技 ゴルフ競技 陸上競技の指導
			文化	大賞
	賞	石田 宗之 はやし田植え保存会 濱坂 渉		美術 洋画 無形民俗文化財 伝統芸能 美術 彫刻

●第1回 贈呈式(ホテルグランヴィア岡山)

月日	区分	賞	氏名	種別		
16.12.14	スポーツ	大賞	武富 豊	陸上競技の指導		
		賞	土井 美智江 藤原 佳市 柳井 清志	水泳競技(マスターズ) 体操競技の指導 ソフトボール競技の指導		
			文化	大賞	高橋 秀	現代美術
				賞	栗井春日歌舞伎保存会 岡山フィルハーモニック管弦楽団 松本 和将	無形民俗文化財 伝統芸能 音楽 管弦楽 音楽 ピアニスト

3 イベントの記録(協賛を含む)

年度	区分	イベント名	実施日	応募数	決定数	金額
25	スポーツ	第63回全日本実業柔道団体対抗大会(協賛)	25.6.15~16			10万円
		第36回岡山県道場少年剣道大会(後援)	25.6.22			名義
		山陽レディースカップ チケットプレゼント	25.9.21~22	258通	145名	現物寄贈
		プロバスケットボール試合「高松ファイブアローズ対島根スサノオマジック」(共催)	25.10.27	43通	20名	35万円
		「第32回山陽女子ロードレース大会」(協賛) 岡山市内	25.12.23			105万円
		成通グループ・(公財)マルセンスポーツ・文化振興財団 PRESENTS 東北楽天ゴールデンイーグルス野球教室(マスカット球場)	26.3.2			—
		東北楽天ゴールデンイーグルス主催プロ野球オープン戦(マスカット球場)	26.3.4/3.5/3.7/3.8/3.9	1,202通	50名	現物寄贈
		「第9回沙美アートフェスタ」(協賛)	25.5.11			10万円
		大野雄二&ルパンティック・ファイブ チケットプレゼント	25.5.17	265通	25組50名	17.5万円
		The Wave Quartet マリンバ・リサイタル/マスタークラス(協賛)	25.7.17			10万円
	文化	岡山県文化連盟「文化のつどい」(共催)	25.7.20/9.19			39万円
		創立10周年記念「表彰者色紙展/自然と遊ぶ・写真展」(主催)	25.8.13~8.18			88.3万円
		「卑弥呼は近江か出雲か吉備か」書籍プレゼント		179通	28名	現物寄贈
		倉魂!高校生コミック・イラストコンクール2013(協賛)	25.10.6~7			10万円
		如月 水墨画展(後援)	25.10.1~10			名義
		みんなで学ぶ「ふるさと美作のあゆみ」書籍プレゼント		71通	10名	1.5万円
		「レオナルド・ブジタとパリ 1913-1931」展 チケットプレゼント	26.2.21~4.6	336通	150組300名	現物寄贈
		山陽レディースカップ チケットプレゼント	24.9.15~16	153通	120枚	20万円
		第2回航空フェア2012(協賛) フライトシミュレーターによる少年航空教室	24.11.11	106	106名	42万円
		成通グループ・(財)マルセンスポーツ・文化振興財団 PRESENTS 東北楽天ゴールデンイーグルス野球教室(マスカット球場)	24.11.11	29チーム	200名	—
	スポーツ	「第31回山陽女子ロードレース大会」(協賛) 岡山市内	24.12.23	—	—	105万円
		女子バレーボール V・プレミアリーグ戦 チケットプレゼント	25.2.9、10、3.2~3	515	80名	28万円
		第61回備前市えびす駅伝競走大会(協賛)	25.2.11	—	—	5万円
		成通グループ・(財)マルセンスポーツ・文化振興財団 PRESENTS 東北楽天ゴールデンイーグルス野球教室(マスカット球場)	25.3.3	4チーム	95名	—
		文化	「第8回沙美アートフェスタ」(協賛)	25.5.12	50点	50
(成通グループ提供) マルク・ジャガール展 チケットプレゼント			24.7.13~8.26	479通	204名	—
前橋汀子ヴァイオリンリサイタル チケットプレゼント			24.10.5	275通	50名	17.5万円
倉魂!高校生コミック・イラストコンクール2012(協賛)			24.10.6~28	300点	100点	10万円
岡山県文化連盟「文化のつどい」			24.10.6、24.11.17			30万円
マーチング・イン・オカヤマ(協賛)			24.10.7~8			4万円
人形浄瑠璃「文楽」 チケットプレゼント	25.3.9 昼・夜の部	174通	20名	8万円		
スポーツ	「第30回山陽女子ロードレース大会」(協賛)	23.12.23	—	—	105万円	
	成通グループ・(財)マルセンスポーツ・文化振興財団 PRESENTS 東北楽天ゴールデンイーグルス野球教室	24.3.4	—	88名	—	
	(成通グループ提供) プロ野球オープン戦チケットプレゼント	24.3.10、24.3.11	305、581	46、46	—	
	文化	「第7回沙美アートフェスタ」(協賛)	23.5.14	—	—	10万円
		岡山県文化連盟「文化のつどい」	23.8.22、8.24	—	—	30万円
		「川島基&松本和将スーパーピアノデュオリサイタル」会場 岡山シンフォニーホール 岡山県民俗芸能大会(協賛)	23.11.3、23.11.19~20	2,326	1,700名	217.8万円
スポーツ	「男子第49回女子第40回西日本学生ハンドボール選手権大会」(協賛)	22.7.10~14	—	—	2万円	
	マルセン小学生ソフトボール教室の開催	22.8.5	—	92名	28.8万円	
	「第29回山陽女子ロードレース」(協賛)	22.12.23	—	—	105万円	
	女子バレーボール V・プレミアリーグ戦 チケットプレゼント	23.3.13	410	100名	25万円	
文化	「第6回沙美アートフェスタ」(協賛)	22.5.15	—	—	10万円	
	岡山県文化連盟「文化のつどい」	22.8.25、8.28、9.1	—	—	47万円	
	「川島基ピアノリサイタル」チケットプレゼント	22.9.26	—	30名	10.5万円	
	「モネとジヴェルニーの画家たち」チケットプレゼント	23.2.25~4.10	527	300名	4.5万円	
	アンデルセン・ミュージカル「ハンスの冒険」チケットプレゼント(成通グループ提供)	23.3.19	35	40名	—	

事業の記録

平成25年度 収支計算書(損益計算ベース) (平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

年度	区分	イベント名	実施日	応募数	決定数	金額
21	スポーツ	「第28回全国ママさんバスケットボール交歓大会岡山大会」(協賛)	21.8.7~9	—	—	2万円
		「第2回倉敷国際少年野球大会」(協賛)	21.8.22~23	—	—	10万円
		「第57回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会」(協賛)	21.9.25~27	—	—	10万円
		「マルセン少年バレーボール教室」山陽ふれあい体育館	21.10.18	—	85名	37万円
		「第28回山陽女子ロードレース」(協賛)	21.12.23	—	—	105万円
	文化	「第5回沙美アートフェスタ」(協賛)	21.5.16	—	—	10万円
		「朝鮮王朝の絵画と日本」チケットプレゼント	21.6.5~7.12	187通	200名	16.6万円
		絵はがき(写真コンテスト入賞作品)プレゼント	21.7.25~29募集	206通	150名	15.2万円
		論文募集	21.9.1~10.31募集	25点	7点	25.4万円
		岡山県文化連盟「文化のつどい」	21.9.5/9.12	—	—	35万円
20	スポーツ	「2009マーチング・イン・オカヤマ」(協賛)	21.10.11~12	—	—	10万円
		(株)NHK文化センター「アンデルセン in ホテルオークラ岡山」(協賛)	22.2.21	—	—	5万円
		「悠久への回帰 高橋秀展」チケットプレゼント	22.3.5~4.4	178	100名	8.4万円
		「第31回岡山県少年剣道練成大会」(協賛)	20.6.7	—	—	10万円
		「第1回倉敷国際少年野球大会」(協賛)	20.8.23~24	—	—	10万円
	文化	「第27回山陽女子ロードレース大会」(協賛)	20.12.23	—	—	105万円
		「マルセン少年陸上競技教室」開催	21.3.8	—	255名	32万円
		「第24回全国高等学校新体操選抜大会」(協賛)	21.3.26~28	—	—	10万円
		「第25回全国高等学校体操選抜大会」(協賛)	21.3.28~29	—	—	10万円
		「第4回沙美アートフェスタ」(協賛)	20.5.10	—	—	10万円
19	スポーツ	「おかやま国際音楽祭2008」チケットプレゼント(成通グループ提供)	20.10.4	444通	100名	—
		「岡山学びフェスタ2008」「マルセンバレーアート教室」の開催	20.11.9	—	220名	7.4万円
		「おかやま子ども民俗芸能大会」(協賛)	20.11.8	—	—	10万円
		岡山県文化連盟「文化講演会」(協賛)	20.11.30/12.21	—	—	35万円
		「マルセン写真コンテスト及び写真展」の開催	21.2.25~3.2	270点	36点	30万円
	文化	「第30回岡山県少年剣道練成大会」(協賛)	19.6.9	—	—	10万円
		「第26回山陽女子ロードレース大会」(協賛)	19.12.23	—	—	105万円
		「第56回備前市えびす駅伝競走大会」(協賛)	20.2.11	—	—	10万円
		「マルセン少年サッカー教室」開催～湯郷 Belle の選手を招いて～岡山ドーム	20.3.8	—	207名	43万円
		「第3回沙美アートフェスタ」(協賛)	19.5.12	—	—	10万円
18	スポーツ	くらしきウィーク 2007 in Kansas City (協賛)	19.7.25~8.1	—	—	10万円
		岡山県文化連盟「文化講演会」(協賛)「書道」「美術」「シンポジウム」	19.9.9・15・23	—	—	35万円
		第19回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア岡山2007」「生涯学習見本市」へ出展 桃太郎アリーナ	19.11.2~6	県総合グラウンド入場者17万2千人	—	48万円
		「第25回山陽女子ロードレース大会」(協賛)	18.12.23	—	—	105万円
		「第55回備前市えびす駅伝競走大会」(協賛)	19.2.11	—	—	10万円
	文化	「ポスト国体・フラワーロード事業」(協賛)	—	—	—	10万円
		「第2回沙美アートフェスタ」(協賛)	18.5.13	—	—	10万円
		「川島 基ピアノリサイタル」開催	18.11.3	431通	200名	約40万円
		コミュニティライブラリーの開設	18.8.4~19.2.16	—	—	—
		岡山桃太郎アリーナ落成記念「オリンピックメダリスト体操競技演技会」(協賛)	17.6.5	—	—	21万円
17	スポーツ	「第24回山陽女子ロードレース大会」(協賛)	17.12.23	—	—	105万円
		「第54回備前市えびす駅伝競走大会」(協賛)	18.2.11	—	—	10万円
		松本和将「ベートーヴェン3大協奏曲のタペ」チケットプレゼント(岡山シンフォニーホール)	17.4.30	—	100名	30万円
		岡山デジタルミュージアム開館記念「新シルクロード展」チケットプレゼント	17.10.21~12.18	452件	100名	9万円
		「あそべる!おもちゃ展」(協賛)(岡山デジタルミュージアム)	18.2.17~22	—	—	10万円
	文化	「第23回山陽女子ロードレース大会」(協賛)	16.12.23	—	—	105万円
		岡山フィルハーモニック管弦楽団第26回定期演奏会 チケットプレゼント	17.3.11	710件	100名	36万円

(単位:円)

科目	予算	平成25年度	増減
* 一般正味財産増減のみ			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	40,000	25,000	△ 15,000
定期預金利息	40,000	25,000	△ 15,000
事業収益	1,400,000	1,477,224	77,224
代行手数料	1,400,000	1,477,224	77,224
受取寄付金	24,587,263	23,000,000	△ 1,587,263
受取寄付金	24,587,263	23,000,000	△ 1,587,263
雑収益	0	1,379	1,379
受取利息	0	1,359	1,359
雑収益	0	20	20
経常収益計	26,027,263	24,503,603	△ 1,523,660
(2) 経常費用			
事業費	24,221,000	24,210,134	△ 10,866
役員報酬	84,000	83,526	△ 474
給料手当	2,550,000	2,547,360	△ 2,640
法定福利費	90,000	89,168	△ 832
広告宣伝費	0	0	0
荷造運賃	186,000	185,029	△ 971
賃借料	478,000	477,667	△ 333
諸会費	0	0	0
交際接待費	38,000	37,062	△ 938
旅費交通費	269,000	268,634	△ 366
通信費	322,000	321,831	△ 169
消耗品費	763,000	763,204	△ 796
租税公課	535,000	534,871	△ 129
減価償却費	0	0	0
地代・家賃	2,700,000	2,700,000	0
修繕費	0	0	0
助成事業費支出	3,000,000	3,000,000	0
表彰事業費支出	7,800,000	7,800,000	0
イベント事業費支出	911,000	910,715	△ 285
広報啓発事業費支出	450,000	449,001	△ 999
印刷費	461,000	460,240	△ 760
後援費	1,420,000	1,419,052	△ 948
雑費	2,164,000	2,163,774	△ 226
管理費	1,806,263	1,800,396	△ 5,867
役員報酬	229,263	228,288	△ 975
給料手当	284,000	283,040	△ 960
法定福利費	10,000	9,908	△ 92
退職金	130,000	130,000	0
広告宣伝費	0	0	0
荷造運賃	21,000	20,132	△ 868
事業引当金	0	0	0
賃借料	0	0	0
諸会費	10,000	10,000	0
交際接待費	167,000	166,984	△ 16
旅費交通費	72,000	71,407	△ 593
通信費	35,000	34,327	△ 673
消耗品費	161,000	160,057	△ 943
租税公課	52,000	51,541	△ 459
減価償却費	0	0	0
地代・家賃	300,000	300,000	0
修繕費	0	0	0
諸謝金	0	0	0
雑費	335,000	334,712	△ 288
経常費用計	26,027,263	26,010,530	△ 16,733
当期経常増減額	0	△ 1,506,927	△ 1,506,927
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
(2) 経常外費用			
当期経常外増減額			
当期指定正味財産増減額			
正味財産期首残高	2,199,072	2,199,072	2,199,072
正味財産期末残高	2,199,072	692,145	692,145

貸借対照表 (平成26年3月31日現在)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金及び預金	1,854,842	2,377,520	△ 522,678
未収金	97,995	898,695	△ 800,700
未収消費税		99,407	△ 99,407
前払費用	27,000	26,250	750
貯蔵品	3,200	5,820	△ 2,620
流動資産合計	1,983,037	3,407,692	△ 1,424,655
2 固定資産			
(1)基本財産			
定期預金	100,000,000	100,000,000	0
基本財産合計	100,000,000	100,000,000	0
(2)特定資産			
特定資産合計	0	0	0
(3)その他固定資産			
その他の固定資産合計	0	0	
固定資産合計	100,000,000	100,000,000	0
資産合計	101,983,037	103,407,692	△ 1,424,655
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	1,167,076	1,132,940	34,136
預り金	10,816	4,680	6,136
未払消費税等	42,000	0	42,000
未払法人税等	71,000	71,000	0
流動負債合計	1,290,892	1,208,620	82,272
2 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	1,290,892	1,208,620	82,272
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
寄付金	100,000,000	100,000,000	0
指定正味財産合計	100,000,000	100,000,000	0
(うち基本財産への充当額)	100,000,000	100,000,000	0
2 一般正味財産			
その他一般正味財産	692,145	2,199,072	△ 1,506,927
一般正味財産合計	692,145	2,199,072	△ 1,506,927
(うち基本財産への充当額)	0	0	0
正味財産合計	100,692,145	102,199,072	△ 1,506,927
負債及び正味財産合計	101,983,037	103,407,692	△ 1,424,655